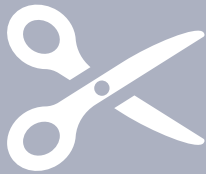


NEXT TEACHER

2025

あなたも学校の先生をめざしてみませんか？



あなたも学校の先生をめざしてみませんか？

明治学院大学は学校の先生になりたい
あなたを応援します



明治学院大学は、開学以来の英学と、人文社会科学教育の長い伝統を背景に、志の高い、優秀な教員を多く社会に送り出してきました。現在も多数の卒業生が全国の中学校、高等学校、特別支援学校で教員として活躍しています。2010年に幼稚園、小学校、特別支援学校の教員養成を目的とした心理学部教育発達学科が開設され、卒業生の活躍の場は、全国の幼稚園、小学校にも広範に広がっています。

明治学院大学を卒業したら、学校や幼稚園の先生になりたいと考えている学生のみなさんは多いに違いありません。しかし、先生になるためには課題が二つあります。ひとつは「教育職員免許状」を取得すること。もうひとつは「教員採用試験」に合格することです。

2016年に開設された「教職センター」は、この「教育職員免許状取得」と、「教員採用試験合格」を目指す学生のみなさんを、在学中はもちろんのこと、卒業後まで一貫してサポートする全学的組織です。

1年次から教職関連科目の履修を始めて、他の学生よりも多くの単位を取り、免許の種類によっては「介護等体験」をおこない、4年次には「教育実習」、そして「教員採用試験」へという具合に、みなさん

が先生として教壇に立つまでの道のりは、決して平易なものではありません。一步ずつ着実に歩みを進めていく必要があります。みなさんのその歩みをサポートするのが「教職センター」の仕事です。

「教職センター」では、免許状に必要な授業単位を計画的に修得するための履修相談や、実習、採用試験に向けた情報、教員募集情報の提供を随時おこなうとともに、長年小学校長、中学校長、特別支援学校長、幼稚園長として豊富な実績と教育経験を持つ「教職キャリアアドバイザー」の先生方による論作文対策や模擬面接指導など、教職を志望するみなさんをマンツーマンで強力にバックアップする活動をおこなっています。

人が人を育てる、そして育てられるという教師の仕事は、一生を捧げて悔いのない仕事です。教員になりたいという明確な目的を持っている学生のみなさんも、教職に興味はあるが、何から始めればよいかわからないというみなさんも、まずは教職センターに相談に来てみてください。そして、教職センターを大いに利用してください。教職センターのスタッフ一同、みなさんの来室を心より歓迎いたします。

Contents

P3 特集 卒業生教員インタビュー

P5 学校教員をめざす前に

P7 教員になるまでのみちのり

P9 教員として採用されるまで
～4年間の流れ～

P11 教員採用の実際
(小学校/中学校・高等学校/特別支援学校)

P13 教員採用の実際(幼稚園)

P15 保育園やその他子どもに関わる仕事

P17 教員採用試験の準備 ①
(教職センターを利用しよう)

P19 教員採用試験の準備 ②
(教育現場に出てみよう)

P21 教員採用試験の準備 ③
(教育現場に出てみよう)

P23 教員となる先輩たちからのメッセージ

P29 学校教員の魅力とは？

P32 よくある質問Q&A



卒業生教員インタビュー

明治学院大学を卒業し、
「学校の先生」になった先輩は数多くいます。
現在、神奈川県立湘南台高等学校に勤務する
マカロワ・ユリアさんもそのひとり。
学生時代、社会学科に在籍しながら、
他学科聴講で英語の教員免許状を取得しました。
念願の英語教員となり、5年目を迎えるマカロワさん。
生徒が自分を頼りにしてくれることが一番のやりがいだと語ります。
教育現場で活躍している先輩の「今」をインタビューしました。

マカロワ・ユリア 教諭

2021年3月 社会学部社会学科卒業
中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(地理歴史)
中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)取得
神奈川県教員採用試験合格 神奈川県立湘南台高等学校勤務



英語の先生になりたくて

～社会学部のご卒業ですが、
英語の教員をなさっているんですね。
教員を目指したきっかけから、教員として
採用されるまでの道のりを教えていただけますか？

きっかけは、大学2年生のときに英会話講師のアルバイトをしたことでした。2年生から教職を取り始め、社会学部だったので社会の免許を取るのに必要な科目を取っていましたが、本心では英語の先生になりたかったのです。そのため、3年生からは他学科聴講という形で英文学科の授業を取り始めました。その結果、卒業時に英語の免許も無事に取得することができました。

就職をどうするか真剣に悩み始めたのは3年生の夏ごろでした。具体的には、私立学校にするか公立学校にするかで迷いましたが、3年生の冬に神奈川県教員採用試験を受けることに決めました。それからいろいろな参考書を教職センターや図書館で借りて勉強を始めました。教職を取っている学生向けの教員採用試験対策セミナーにも参加しました。神奈川県の英語の教員採用試験ではTOEICなど外部試験のスコアを使えば教科専門の試験が免除になるという制度があります。私はTOEICのスコアをもっていたので、勉強は一般教養・教職専門と論文、面接対策だけしました。4年生の春に教員採用試験に出願し、試験は7月にありました。1次試験に無事に合格し、合否発表の2週間後くらいに2次試験の面接が待っていました。2次試験の結果は10月にわかり、そのときに配属先の地域などの希望を出しました。2月なかばに赴任校が決まり、校長からお電話がありました。3月頃に校長面談のため初めて赴任校に行き、先生方にあいさつをし、学校の様子、使っている教科書など、より具体的なことを知ることができました。

教員の「責任」と「やりがい」

～これまでの教員生活の中で、印象に残っている出来事がありますか？

私は母語がロシア語です。教員1年目のときに、ある生徒とロシア語やロシアの文化について話すことがありました。それをきっかけにその生徒はロシア語に興味を持つようになり、何回か私のところに質問をしにきました。その後、本格的にロシア語を学びたいと言い、放課後の時間などに私はその生徒にロシア語を教えることになりました。その生徒は高校を卒業して

大学に入りましたが、大学選びのときもロシア語を学べるかが一つのチェックポイントだったようです。そして卒業後も何回か学校にきて、一緒にロシア語会話をしたりしました。将来はロシア語能力検定試験も受けたいと言っています。

当たり前のことかもしれませんが、教員とはこんなにも生徒への影響力を持っているのだと、この経験を通して実感しました。もしあのとき私たちが話さなかったら、もしかしたらその生徒は違う進路を選んでいたかもしれないこと、全然違う趣味を持っていたかもしれないことを考えると、教員の「責任」とともに「やりがい」を感じます。

～生徒との関わりにおいて大切にしていることはありますか？

生徒にはさまざまな悩みもありますし、ときには反抗します。大人からしたら納得いかないことをすることもあるのは当たり前です。ただ私はどんなことがあっても一旦それを受け止めて、ジャッジしないように心がけています。悪いことをしたときには叱ることももちろん必要ですが、そういうときは「本人」ではなく「行動」を叱ります。とにかく「どんなあなたでも否定せずに受け入れるよ」というアピールをするようにしています。そうすれば自己肯定感が上がり、大人への信頼もできるようになると私は信じています。

教員という仕事の魅力

～教員という仕事の魅力はなんですか？

教職の授業でも習うと思いますが、教員は多忙です。やらないといけないことも毎日山ほどありますし、「生徒の今と将来」がかかっているのでミスや手抜きは許されません。しかし、生徒が相手だからこそ、それが最大のパワーでもあります。毎日生徒と接しているなかで一人ひとりの性格、得意・不得意、



伸ばせるポイントなどが見えてきます。生徒も教員のことをだんだんわかってきて、信頼関係ができます。そうすると勉強のことや将来のこと、悩みや何気ない話をしてくれるようになります。生徒は自分を頼りにしてくれているということが伝わります。それが教員の仕事の中で一番のやりがいだと私は思います。また、「今年もマカロワ先生が担当でよかった」というふうに生徒に言われると、嬉しくてたまりませんし、これから生徒のために頑張ろうと思います。

～「こんな人は教員に向いている」と思うのはどんなタイプの人でしょうか？

教員は、いろいろな人とコミュニケーションを取る必要があります。生徒とはもちろん、教員同士でも日々さまざまなことについて話し合い助け合いながら仕事をしますし、保護者とも適宜連絡を取り、お互いに協力し合う必要があります。そのため、人とコミュニケーションを取りながら、意見交換しながら、共に支え合いながら仕事をするのが好きな人が教員に向いていると思います。

～学校教員の労働環境に
不安を抱いている学生もいると思いますが、
実際のところはどのようなのでしょうか？

自治体や学校によって働き方改革が進んでいるところもあれば、あまりそうでないところもあるようです。私の勤務校に関して言えば、進んでいるほうだと思います。定時は17:00ですが、残って仕事する場合でも19:30には職員室の電気が消され、退勤しないといけません。また、夏休みや冬休みなどの長期休みの期間中は割と連続休暇が取りやすいです。

教育実習の指導教諭に、校務についてこのように教えていただいたことがあります。「授業と教材研究に使う時間は、勤務時間の2～3割ほどしかなく、それ以外の時間はその他の校務や生徒対応に割くことになったりして、実は『教える』ことにそれほど時間は割けない」と。当時それを聞いて驚き

ましたが、教員になってその言葉を思い返すと、本当にそうだと思います。もちろん忙しい時期とそうでない時期はありますが、「教員の仕事は教えることだけではない」ということを知ったうえで教員を目指したほうががっかりしないと思います。

～「ワークライフバランス」大切ですよ。
お休みの日はどのように過ごされていますか？

休日はまずたくさん寝ます！ ゆっくり体を休めて、好きなことをします。本を読んだり、友達と会ったり、ジムに行ったりしてリフレッシュします。大事なのは一度仕事のことを忘れることだと思います。休日にボディとマインドをリセットすれば月曜日からまた生徒のために頑張れるようになります。

これからの自分へ、後輩たちへ

～今後の目標がありましたら教えてください。

教員になって約4年経ちましたが、まだわからないことがたくさんあり、毎日先輩の先生方に助けていただきながら仕事をしています。いろいろなことを学び、生徒に対し多角的なサポートができるようになりたいです。また、授業の技術、どうしたらわかりやすい授業ができるか、生徒が興味を持てるような授業の組み立て方なども、何年働いても教員は常に考え、学び続けたいと思います。

～教員を目指す明学生にメッセージをお願いします。

明学は教員になろうと思っている学生のサポート制度が充実していると思います。教職センターに行けば参考書や資料などがたくさんあるし、職員の方が疑問に答え、サポートしていただけます。また、教職課程の先生方も教員採用試験の対策や面接練習などしてくださいました。とにかく学校にある資源を使ってください！自分の夢を信じて目標に向かって、将来の生徒たちのために頑張ってくださいね！

勤務日の一日

8時15分	出勤	
8時30分	教員の 打ち合わせ	生徒への連絡事項や当日のスケジュールの確認を行います。
8時45分～	朝の ホームルーム	2年生の担任(生徒37名)をしています。朝のホームルームでは生徒に連絡事項を伝えたり、提出物の回収・返却を行ったりします。前後の時間には生徒と雑談することもあります。
9時00分～ 12時50分	午前の授業	空き時間には、教材研究、その他の校務(学年関連、分掌関連)などを行います。
12時50分～ 13時35分	昼休み (45分間)	普段はお昼ご飯を食べたり、他の教員と話したりして過ごします。臨時の会議や生徒対応が入るときは、お昼ご飯は空きコマの時間に食べます。
13時35分～ 15時25分	午後の授業	空き時間には、教材研究、その他の校務(学年関連、分掌関連)などを行います。
15時25分～	帰りの ホームルーム	明日の連絡、提出物のリマインドなどを行います。生徒と一緒に教室の掃除もします。
15時25分 (帰りのHR後)～ 17時00分	会議、小テスト (追試)の実施、 生徒対応など	教員と生徒がお互いに授業がない貴重な時間なので、忙しくないときは少し教室に残って生徒と雑談して信頼関係を築く時間になっています。
17時00分～ 19時00分	翌日の準備、 保護者との連絡、 残務処理など	17:00定時なので本来は帰れる時間ですが、実際にはこの時間までに仕事を終えることはなかなか難しく、定時以降も残る教員が多いです。時々部活動で残ることもあります。18時～19時頃までに退勤することが多いです。

担当している「英語コミュニケーションII」の授業では、なるべく生徒が主体になれるよう「教えずがない」ことを心がけています。授業中、こちらからは難しい部分のみヒントを与え、生徒はスマホを使って調べたり、グループやペアで話し合ったりしながら、英文の理解を深めます。



学校教員をめざす前に

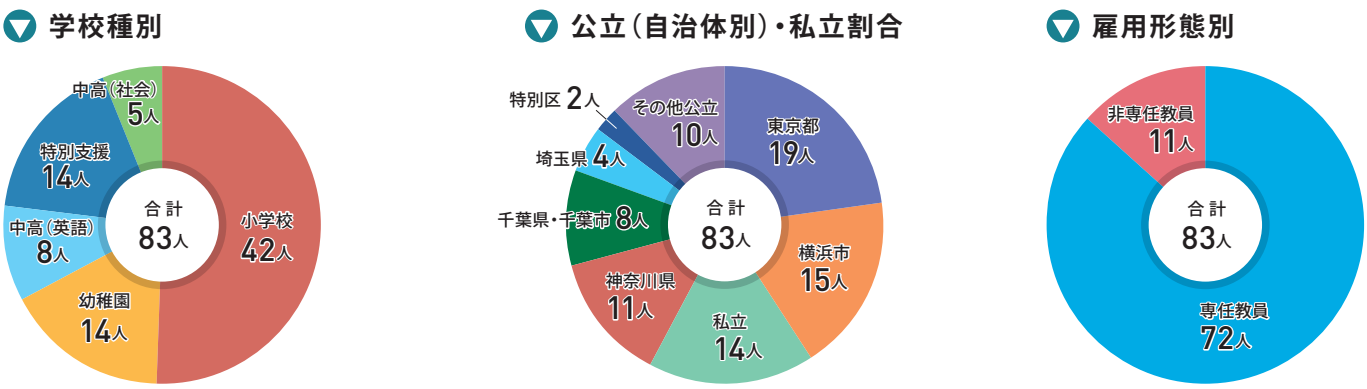
まず最初に明治学院大学での教員就職者状況や、代表的な採用形態、各学科で取得可能な教員免許をご紹介します。学校教員をめざす前に自分の志す道を確認しておきましょう。

学校教員とは？

子どもたちの学校生活全般を指導し、育てていく。それが学校教員の仕事です。
授業の教科指導はもちろん、次の世代を生きる子どもたちのために、保護者や地域と連携しながら適切な生徒指導、進路指導を行うことも重要な仕事です。
学校教員は、限りない可能性を持つ子どもたちの成長に携わる、大きな社会的責任とやりがいを伴う仕事と言えるでしょう。

現在、「幼稚園」「小学校」「中学校、高等学校（義務教育学校、中等教育学校含む）」「特別支援学校」で教員として働く先生は、全国に100万人以上います。明治学院大学の2024年3月卒業、修了者の教員就職者データは下記のとおりです。

明治学院大学 2024年3月卒業修了 教員就職者データ



学校教員の採用(雇用)形態

学校教員には複数の採用(雇用)形態がありますが、そのうち代表的なものを示します。

●専任教員

期限の定めのない雇用契約の教員で、企業でいえば正社員に該当します。教員採用試験は主にこの専任教員の採用です。また「学校の先生」といえば、この専任教員をさすことが多いです。

●臨時的任用教員(会計年度任用教員)・常勤講師

1年間など期限に定めがあって雇用されます。現任教員の妊娠出産休暇や育児休業の取得などの理由により欠員が生じた際、代替として勤務する場合等が該当します。また私立学校などでは当初1年間は、「常勤講師」としての身分で採用し、その後専任教員として雇用するかを決める場合もあります。教員としての職責等は専任教員と変わらず、担任等を受け持つこともあります。給与等も同年齢の専任教員と遜色ありません。

●非常勤講師

1年間など雇用契約に期間があるのは、臨時的任用教員と同じです。授業ごとの雇用(授業だけを担当する)が一般的です。主に高等学校での採用が多いです。

各学科で取得可能な教員免許状一覧

本学の各学科において取得できる教員免許状は、次のとおりです。

学部	学科	中学校教諭	高等学校教諭	幼稚園教諭 小学校教諭 特別支援学校教諭
文学部	英文学科	英語	英語	
	フランス文学科	フランス語	フランス語	
経済学部	経済学科	社会	地理歴史・公民・商業	
	経営学科	社会	地理歴史・公民・商業	
	国際経営学科	社会	地理歴史・公民・商業	
社会学部	社会学科	社会	地理歴史・公民	
	社会福祉学科	社会	公民	特別支援学校
法学部	法律学科	社会	地理歴史・公民	
	消費情報環境法学科	社会	公民・情報	
	政治学科	社会	地理歴史・公民	
国際学部	国際学科	社会	地理歴史・公民	
心理学部	心理学科	社会	公民	
	教育発達学科	英語(二種免許)※1		幼稚園※2 小学校※2 特別支援学校※2

※1 他学科履修による副免許。各学年5～10人程度、選考あり。
※2 選択するコースによって取得できる免許は異なります。

本学の教職課程を履修しながら、他大学の通信教育を受講して、小学校教諭二種免許を取得するプログラムもあります(教育発達学科・フランス文学科を除く)。このプログラムは、別途授業料が必要です。
所属学科で希望する教科の免許が取得できない場合、取得可能な他学科に必要な科目を聴講し、その免許を取得する「他学科聴講」という制度があります。詳細は、教務部教職担当窓口でご相談ください。
保育士資格は全ての学科で取得可能です。詳細は[15ページ](#)をご確認ください。

教職履修のポイント(教員就職の視点から)

採用試験は、校種・教科ごとに行われるのが一般的ですが、自治体により複数教科や校種をまとめて実施する場合があります。特に中高の社会、英語を希望する場合、受験したい自治体の受験資格を早いうちに確認し、取得予定の免許状に不足がないよう注意しておく必要があります。基本的には、将来の選択肢を狭めないよう、できる限り中学校と高等学校の両方、高等学校社会においては「地理歴史」「公民」の両方を取得するようお勧めしています。

注意を要する受験区分(実施枠)の一例

自治体	受験区分校種	受験区分教科	必要な免許状
神奈川県	高等学校	地理歴史・公民	高等学校「地理歴史」及び「公民」の免許状
横浜市	中学校・高等学校	社会	中学校の免許状(高等学校の免許だけでは受験不可)
川崎市	高等学校	社会	中学校の免許状及び高等学校「地理歴史」「公民」両方の免許状
東京都	中学校・高等学校	英語	中学校・高等学校両方の免許状

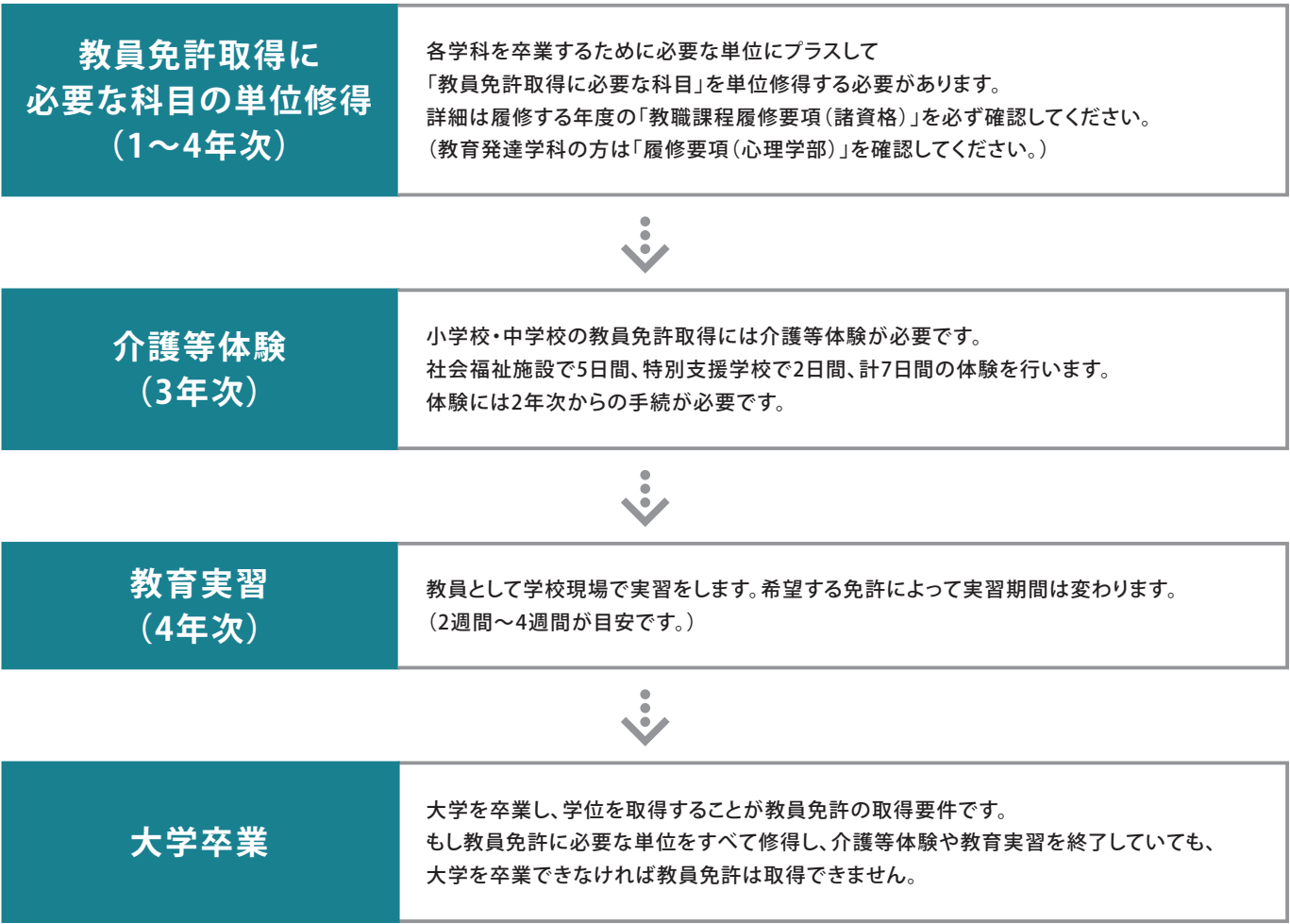
教員になるまでのみちのり

教員になるまでの大まかなみちのりをまとめてみました。
皆さんが教員になるには、「**①教員免許状を取得**」し、「**②教員採用試験に合格**する」必要があります。

➤ ① 教員免許状を取得する（相談窓口：教務部教職担当）

幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員になるには教員免許が必要です。教員免許は学校種と教科ごとに取得します。以下の要件を満たし、都道府県教育委員会に授与申請を行うことで取得できます。

教員免許取得までのプロセス



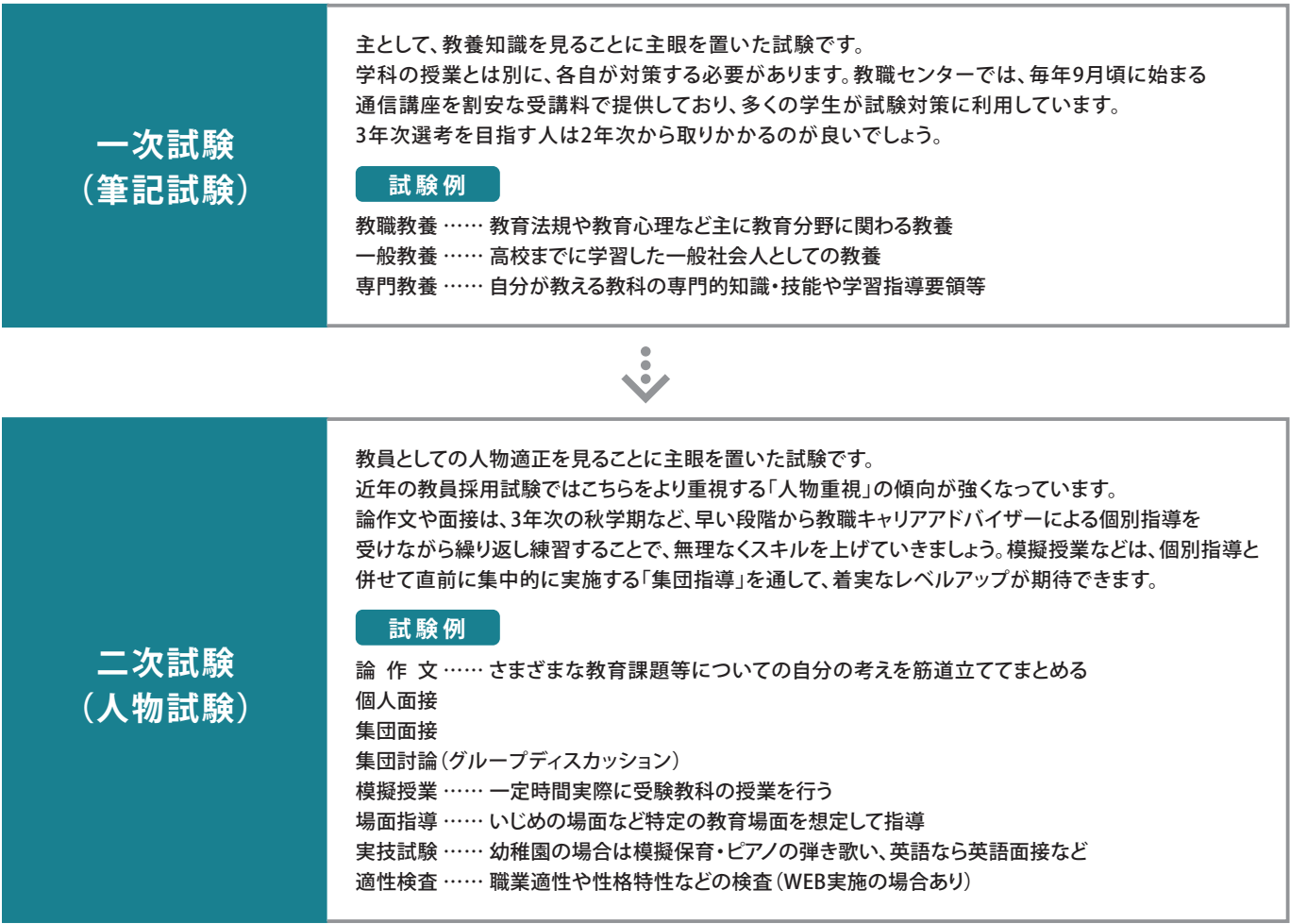
教員免許状取得！

教員として学校

➤ ② 教員採用試験に合格する（相談窓口：教職センター）

典型的な例として、公立学校の教員を目指す場合、採用試験の一般選考は4年次の夏に行われます。3年次のうちに一次（筆記）試験の一部または全部を受験できる「3年次前倒し選考」や、秋選考を実施する自治体もあり、チャンスが広がっています。一般的に一次試験を経て二次試験に進みます。試験の順番や種類には、自治体によって違いがあります。

教員採用試験合格までのプロセス



教員採用試験合格！

の教壇へ！！

教員として採用されるまで ～4年間の流れ～

教員採用にかかわる領域を中心に、4年間の流れを一例として表にしてみました。3～4年次に挑む採用試験、開講している対策講座やガイダンスのうち主なもの（実績）も掲載しています。

[illegible]

※公立学校の採用試験スケジュールは、主に首都圏の事例をもとに記載しています。

教員採用の実際(小学校／中学校・高等学校／特別支援学校)

ここからは教員の採用がどのように行われているのか、少し詳しくみていきましょう。
採用方法は「公立学校」と「私立学校」で異なります。

公立学校教員の採用

教員を進路として考える方の多くが公立学校教員をめざすことから、最初に公立学校の採用についてみていきます。

各地方自治体が行います

都道府県および主に政令指定都市がそれぞれの設置、運営する学校(公立学校)のために行います。日程は近接する自治体で統一されている場合が多く、併願が難しくなっています。採用についての情報は、各都道府県や政令指定都市の「教育委員会」のウェブサイトを確認してみましょう。

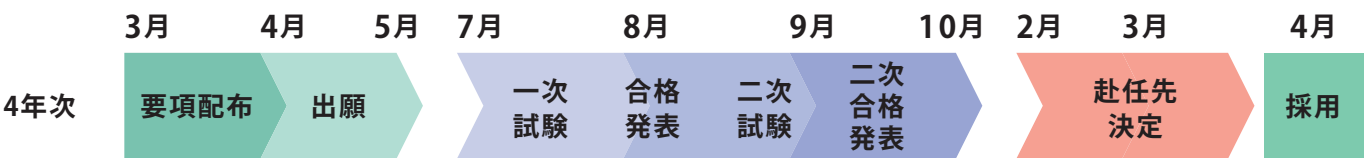
採用試験の実施方法が変化しています

主に志願者減少の影響により、採用試験の「早期化」「複線化」が進んでいます。4年次の一次(筆記)試験の時期を早める自治体、3年次に一次試験の一部を受けられる「3年次前倒し選考」を行う自治体、また、夏に加えて、一部校種の「秋選考」を実施する自治体等が出てきており、公立学校の採用試験をひとくくりにしがたい状況となっています。自分に関係する情報を見落とさないよう、早いうちからアンテナを張っておく必要があります。

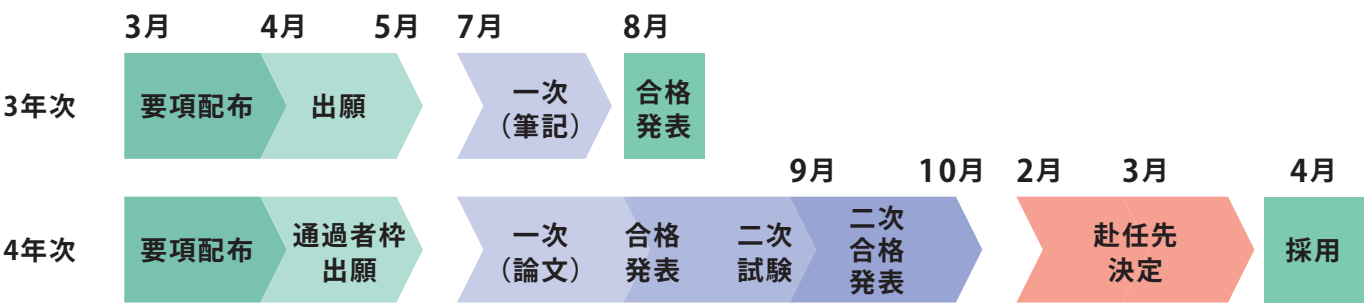
自治体の中には、教育委員会のウェブサイトに登録すると、教採や学生向けに開催する相談会やイベントに関する最新情報を送ってくれるところもありますので、積極的に登録し、情報収集しましょう。

公立学校の典型的な採用の流れ

【4年次一般受験の場合】



【3年次前倒し選考を受験する場合】



私立学校教員の採用

学校には公立学校のほかに私立学校もあります。ここでは私立学校の採用についてみてみましょう。

各学校が行います

公立学校のように共通した採用試験はありません。民間企業と同じく学校ごとに行われ、試験内容も募集時期も千差万別です。募集は毎年あるわけではなく、欠員が出た教科の教員を補充する形で行われるのが一般的です。中でも小学校と特別支援学校は学校数自体が公立とは比較にならないほど少なく、採用の中心は中学校や高等学校です。

また、私立学校では、最初から専任教員として採用することが少なく、最初の1年間は常勤講師(1年間など期限に定めがある採用 [5ページ](#)参照)等の身分で採用し、その後専任教員として雇用するかどうかが決まることが多いのも特徴です。

採用へのアプローチ

大きく2つに分けられ、求人や公募に応募する方法と、各自治体の私学協会に登録し、オファーを待つ方法があります。

(a) 求人や公募に応募する方法(代表的なもの)

- ・大学に送られてくる求人をチェック
- ・日本私学教育研究所のサイト内「[教職員採用情報](#)」をチェック
- ・複数の学校が集まる合同説明会に参加
- ・キリスト教学校教育同盟の各種イベントに参加／教職員就職支援の登録
- ・希望する学校に直接求人を確認

(b) 各自治体の私学協会に登録する方法

各都道府県には私学協会があり、中には教員志望者の登録制度を設けている場合があります。

私学教員適性検査廃止後は独自のエントリー制度を

新たに設けたり、「[教員採用.jp](#)」(私立学校教員の求人情報サイト)を利用したりすることが多いようですが、詳しくは志望される私立学校が加盟する私学協会のウェブサイトなどで確認してください。

首都圏 主な私学協会

- 東京都：[東京私立中学高等学校協会](#)
[東京私立初等学校協会\(小学校\)](#)
- 神奈川県：[神奈川県私立中学高等学校協会](#)
- 千葉県：[千葉県私立中学高等学校協会](#)
- 埼玉県：[埼玉県私立中学高等学校協会](#)

教員採用の実際（幼稚園）

小学校、中学校・高等学校、特別支援学校の採用についてみてきましたが、幼稚園の教員採用も同じく公立と私立で異なります。

公立幼稚園の採用

自治体によっては公立幼稚園を設置しているところがあります。

公立幼稚園の教員になるには、各自治体が実施する採用試験に合格しなければなりません。合格倍率は年によって変動するものの、東京都の場合、高い年では10倍程度になることもあります。（参考：2024年度採用「東京都特別区立幼稚園教員採用候補者選考」では、受験者総数186名、合格者22名、補欠者48名、採用者47名）。本学では例年合格者が出ており、しっかり対策に取り組めばチャンスは十分にあります。公立幼稚園の教員の身分は地方公務員です。幼稚園教員を進路に考えている人は検討するとよいでしょう。

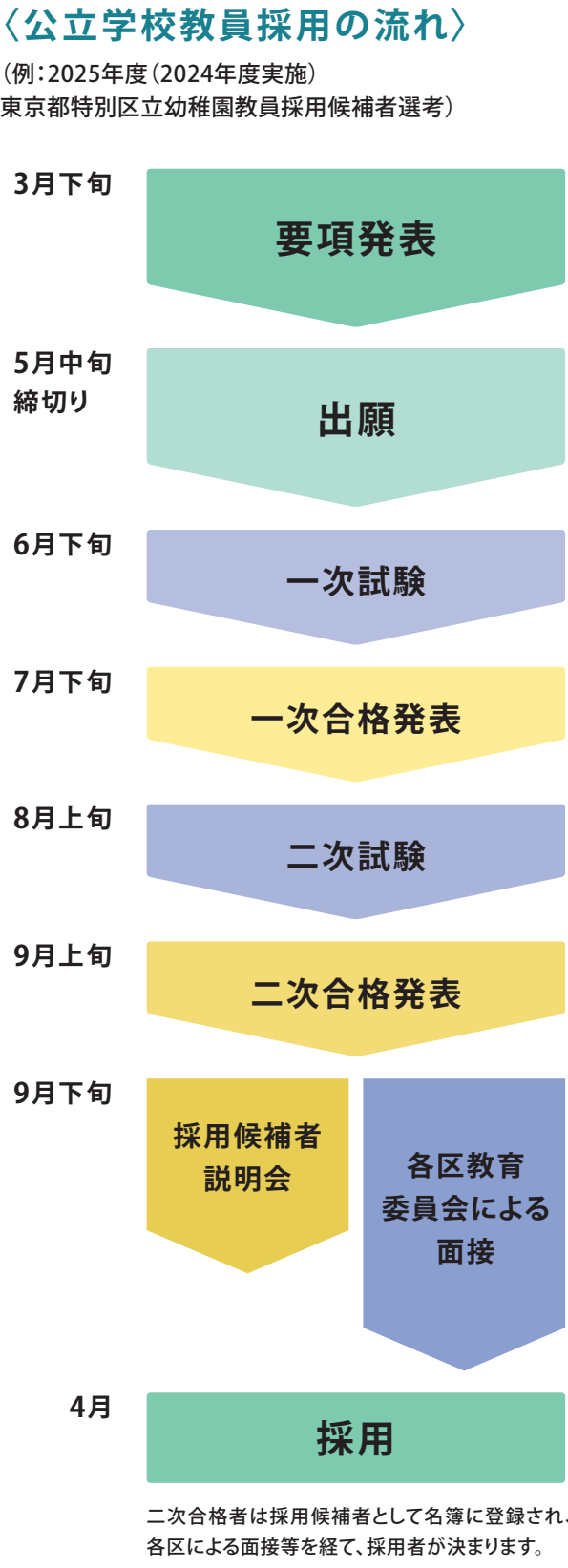
また、受験資格として「幼稚園教諭」「保育士」の両方を求められることが多くなっています。幼稚園教諭を目指す方は、在学中に保育士の資格も取得しておくことを強くお勧めしています。（[15～16ページ](#)参照）

首都圏の採用試験の実施主体（例）

東京23区	東京都特別区人事・厚生事務組合
千葉県浦安市	浦安市（市役所総務部人事課）
千葉県習志野市	習志野市（市役所総務部人事課）
神奈川県秦野市	秦野市（市役所総務部人事課）
埼玉県加須市	加須市（市役所総務部職員課）

（ ）内は取扱部署

（2024年度実績）



私立幼稚園の採用

公立のような共通の採用試験はなく、幼稚園ごとに採用が行われます。

求人票を見て応募し、筆記試験と実技や面接試験を経て採用される流れがスタンダードである一方で、教育実習やボランティア等でお世話になったことがきっかけとなり採用されるケースもあります。また、希望する地域内の幼稚園の中から教育方針等に共感できる園、興味を持った園に自ら連絡、見学した上で、受験、採用に至るようなケースもあるようです。

採用試験の実施枠（例）

幼稚園教諭 保育士 幼稚園教諭・保育士（一括採用）

※一括採用の場合、幼稚園教諭と保育士資格の両方の取得（見込）を受験資格にしている自治体もあります。

採用へのアプローチ

求人や公募に応募する方法と、連合会等に登録し、オファーを待つ方法があります。

どのようなアプローチの方法を取るにせよ、複数の幼稚園を見学し、さまざまな幼稚園の現場をよく知るようにするとよいでしょう。

- (a) 求人や公募に応募する方法（代表的なもの）

 - ・大学に送られてくる求人をチェック
 - ・幼稚園連合会や民間の就職情報会社が主催する、幼稚園フェアや説明会に参加
 - ・幼稚園連合会や幼稚園協会の求人情報サイトを確認
 - ・希望する園に直接求人を確認
- (b) 幼稚園連合会・幼稚園協会に採用希望者登録する方法

連合会（協会）によっては採用希望者の登録制度を設けている場合があります。

3年生になったらそれぞれのウェブサイト等で確認しましょう。

幼稚園・保育園（保育所）・認定こども園の違い

幼稚園：（対象：3～5歳）

小学校以降の教育の基礎をつくるための幼児期の教育を行う学校

保育園（保育所）：（対象：0～5歳）

就労などのため家庭で保育のできない保護者に代わって保育する施設

認定こども園：（対象：0～5歳）

幼稚園と保育所の機能や特長をあわせ持ち、地域の子育て支援も行う施設

（内閣府よくわかる「子ども・子育て支援新制度」を参考に作成）

幼稚園は学校ですので教育施設、保育園は保育施設、認定こども園は双方の機能と特長を持つ施設と考えればわかりやすいでしょう。幼稚園と保育園はそれぞれに目的や役割、特長が異なります。また各園ごとに教育方針・保育方針を持って運営されていて、どちらが優れているというものではありません。近年は預かり保育を行う幼稚園も増え、活躍の場が広がってきています。双方の役割を持つ認定こども園も増えてきています。

首都圏 おもな幼稚園連合会・協会

東京都私立幼稚園連合会
神奈川県私立幼稚園連合会
横浜市幼稚園協会
全千葉県私立幼稚園連合会
全埼玉私立幼稚園連合会

など

13

14

保育園やその他子どもに関わる仕事

教員以外にも、子どもたちに関わる仕事は数多くあります。
中でも質問が多く、かつ近年特に需要の高まっている保育士を中心に説明します。

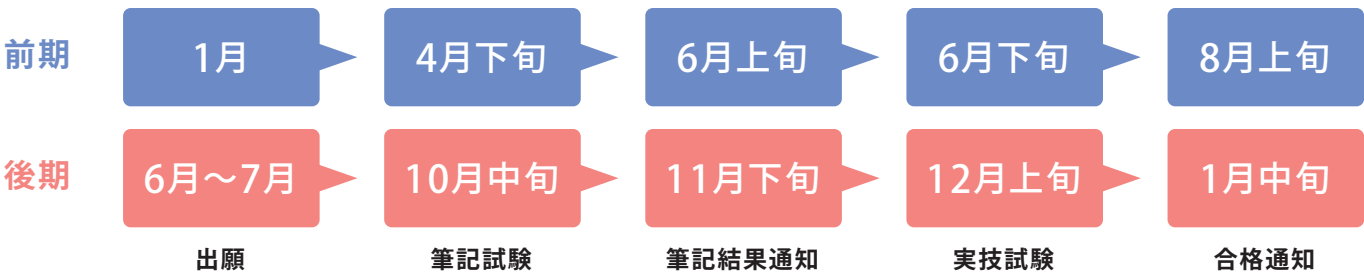
保育園に勤めるには

保育園(保育所)に保育士として勤めるためには、国家試験である保育士試験に合格し、かつ各自治体(公立)や保育園等(私立)が行っている採用試験に合格することが必要です。まず保育士試験についてみてみましょう。

保育士試験(全国共通試験)

保育士試験は国家試験で、年2回行われています。9科目の筆記試験に合格したのち、実技試験にも合格すると保育士資格を取得することができます。教員免許状取得予定の有無に関わらず、全ての学科の学生(2年生以上)が在学期間中に挑戦することができます。試験の概要は以下の通りです。

〈試験の流れ〉年2回(前期と後期) ※ 2024年実績



保育士試験の受験を考えている方は、一般社団法人全国保育士養成協議会ウェブサイト <https://www.hoyokyo.or.jp/> から、受験申請の手引きの請求方法、試験日程等確認してください。

なお、教職センターでは、保育士試験を受験する学生をサポートするため、通信教育の「保育士講座」を個人で申し込む場合に比べて安価に提供しています。(例年春学期に募集、夏休み頃から学習開始)参考書とオンライン学習を組み合わせた講座で、自分の都合に合わせて受講できます。積極的に活用してください。

筆記試験

試験科目

各回それぞれ2日間に分け、下の9科目の試験が実施されます。

科 目	
保育の心理学	社会的養護
保育原理	子どもの保健
子ども家庭福祉	子どもの食と栄養
社会福祉	保育実習理論
教育原理	

合格基準

各科目において満点の6割以上得点すれば合格とされます。1回の試験で全科目合格しない場合でも一部の合格科目を一定期間担保でき、その間に合格できなかった科目に再挑戦し結果として全科目合格できれば筆記試験は合格となります。ただし『教育原理』および『社会的養護』はセット科目と呼ばれ、同一実施回の試験で両科目とも満点の6割以上が必要とされています。

実技試験

筆記試験の全9科目に合格*すれば、次の実技試験の受験資格が得られます。この実技試験にも合格し、所定の手続をすれば保育士資格を取得できます。

- ・音楽に関する技術(例:ピアノの弾き歌い)
- ・造形に関する技術(例:保育課題の描画)
- ・言語に関する技術(例:素話^{すばなし})

左記から
2科目選択

*合格した筆記試験科目の有効期限等については、[一般社団法人全国保育士養成協議会ウェブサイト](#)を確認してください。

神奈川県独自地域限定保育士試験

年2回行われている全国共通の試験とは別に、神奈川県では2024年現在、県独自の地域限定保育士試験が実施されています。この試験の合格者は、神奈川県でのみ保育士として働くことができる保育士資格(地域限定保育士)が得られますが、地域限定保育士としての登録から3年経過した後は、全国で保育士として働くことができます。また、この試験では、筆記試験の全科目を合格

したのちに受験する「実技試験」に代えて、「保育実技講習会」を実施します。全国共通試験で筆記試験を合格した方が、この試験で保育実技講習会のみを受講することも可能です。(2024年は、筆記試験は8月、保育実技講習会は10月～11月の実施でした。)神奈川県エリアで保育士を目指す方には挑戦しやすい制度です。なお、同様の制度は大阪府・沖縄県・千葉県(成田市)にもあります。

保育園の採用

保育園についても、幼稚園と同様に、公立と私立で採用形態が違います。

公立保育園は、主に市区町村が採用試験を行っているため、公務員試験に合格する必要があります。幼稚園教諭と保育士をまとめて採用する自治体もあり、その場合、保育士資格と幼稚園教諭免許両方の取得(見込)を受験資格とすることがあるので注意が必要です。私立の保育園

(保育所)は園ごとに採用を行っており、受験資格(幼稚園教諭免許の有無)、試験内容とも、園ごとに様々です。

教職センターでは、保育園の求人紹介はもちろん、幼児教育や保育に精通する教職キャリアアドバイザーによる個別相談や、自己PR、論作文の書き方指導、面接練習など、きめ細かなサポートを行っています。積極的に利用してください。

その他子どもにかかわる仕事

子どもにかかわる仕事はさまざまです。公的な仕事としては、たとえば「児童指導員」や「児童の遊びを指導する者(児童厚生員)」などがあります。

児童指導員

家庭の事情や障害などのため、児童福祉施設で生活を送っている0～18歳までの児童を親など保護者に代わり、健全に成長するように生活指導します。

児童の遊びを指導する者(児童厚生員)

地域の18歳未満のすべての児童を対象に安全な遊び場や学習の場を提供し、その健康の増進と豊かな情操を育む一方、社会関係になじませるため、さまざまな指導を行います。

(独立行政法人 福祉医療機構 HP [福祉のしごとガイド資格・職種編 しごと](#)の内容より)

前者は主に児童養護施設や乳児院、後者は主に児童館などで職務に当たります。他にも民間企業を含めると子どもにかかわる仕事は数多くあります。

教職センターを利用しよう

教職センターは、教員を目指す学生のために各種サポートを行っています。
筆記試験、人物試験の本格的な対策が始まる3年生頃はもちろん、教職に興味はあるものの
何から始めればよいかわからないという1、2年生もぜひ積極的に活用してください。

教職キャリアアドバイザーによる丁寧な指導

教職センターには、学校長・園長などとして活躍してこられた経験豊富な
「教職キャリアアドバイザー」(29ページ参照)から個別相談はもちろん、
論作文指導や模擬面接などの実践的指導が受けられます。



教職キャリアアドバイザー個別相談予約のしかた

1 教職センターに「教職キャリアパスポート」を提出

2 [ポータルページ](#) → キャリア支援 → 教職キャリアアドバイザー予約システムから相談予約

(原則として毎月最終水曜日午後4時頃に翌月の予約受付開始)

希望の校種(幼・小・中高・特別支援)、相談方法(対面またはWEB)を選択

【対面方式】白金キャンパスで行います

【WEB方式】Microsoft Teamsを使用します

教職キャリアアドバイザー主催の各種勉強会や講座も充実

(勉強会の一例)

●人物試験(二次試験)対策集団指導

公立の小学校・特別支援学校を目指す4年生を対象
に、二次試験直前の7月、8月に集中講座を開催してい
ます。受験する自治体ごとに小人数のグループ分かれ
て、個人・集団面接、模擬授業などの練習を行います。

●幼児教育・保育を考える会

幼稚園、保育園教諭、保育士を目指す3、4年生が
対象です。幼児教育の基本を学び、教材研究や事例の
検討などを通して保育のスキルアップを目指してい
きます。国公立私立幼稚園の見学など多彩なプログラム
が用意されています。

●中高教員志望者向け ランチタイムミーティング

中学・高等学校教員を目指す3、4年生が学科を
越えて参加しています。お昼休み開催で模擬授業
や集団討論の練習なども行います。

●合格者報告会

公立の小学校・特別支援学校の採用試験に合格
したばかりの4年生を招いて、一次・二次試験に向
けての対策方法や、試験当日の様子など、経験者だ
からこそわかることを話していただくイベントです。



幼児教育・保育を考える会



中高教員志望者向けランチタイムミーティング



合格者報告会

教員採用試験対策講座・保育士講座・模擬試験

教員採用試験対策講座

筆記試験対策:採用試験に精通した出版社の通信講座を、大学の補助により割安に提供しています。一般教養、教職教養、
専門教養の中から必要な部分だけ受講できます。3年次選考の受験を考える方は2年次から、一般受験の方は3年次からの学習
開始が推奨されます。

人物試験対策:教職キャリアアドバイザーが、面接練習や場面指導、模擬授業などの指導を丁寧に行います。

保育士資格取得対策講座

個人の都合に合わせて受講できる通信講座を大学の補助により割安に提供しています。保育士資格は、保育士としての就職を
目指す方はもちろん、幼稚園教諭を目指す方も在学中に取得しておくことが望ましい資格です。授業の履修によっては取得する
ことができず、個人で対策する必要があります。本学学生の場合2年次から受験できますので、1年次から受講を始めても早すぎる
ことはありません。なおこの講座は実技試験対策にも対応しています。

模擬試験

教採試験の出題傾向や、自分のレベル、弱点を把握することから学習の指針を確認して、筆記試験/論作文の実力アップに
つなげましょう。自宅で問題を解き、教職センターに提出する方式で提供しています。2年次から受験できます。

参考書・過去問題集・各種資料の閲覧・貸出

さまざまな受験自治体、学校種の参考書・過去問題集を揃えています。一部、貸出も可能
です。また教員に関する雑誌や新聞なども自由に閲覧できますので、最新の教育情報はここ
で入手しましょう。合格への秘訣が詰まった先輩方の「採用試験活動報告」も閲覧できます。



求人票・各自治体の教員採用試験実施要項の閲覧

本学に送付された全国の私立学校(園)等の求人票をファイルしているほか、各自治体の教員採用試験実施要項
を閲覧することができます。(近隣の自治体の実施要項には配布可能なものもあります。)

教員就職相談

教員就職に向けて、希望進路に進むためには今何をすればよいのか? 困ったこと、心配なことは何でも相談
してください。学校現場の実際を良く知るための「学校ボランティア」や「教職インターンシップ」の参加についても
アドバイスしています。

➤ 教職センター

教職センターウェブサイト

ウェブサイトでも、教職に関する
情報や本誌の電子データを掲載
しています。



✓ PCから

<https://www.meijigakuin.ac.jp/teachers/>

➤ スマホから



場所 白金キャンパス 本館1階

※横浜キャンパスでは、「5号館キャリアセンター」内に教職センタースタッフによる定期的な開室日を設けています。

教員免許取得に向けたサポート

教員免許取得に関わる履修の仕方や教育実習・介護等体験に関すること、
教員免許の申請方法等は、各キャンパスの「教務部」で相談してください。
(白金教務部:本館2階、横浜教務部:1号館1階)

教員採用試験の準備 2

教育現場に出てみよう

教育現場の実際をよく知るための制度のひとつに学校ボランティアがあります。
ここでは制度を紹介するとともに学校ボランティアを体験した先輩のメッセージをお届けします。

学校ボランティア

教育現場の実際をよく知るためのしくみとして「学校ボランティア」があります。
活動の内容は、先生方の授業のサポート、特定の児童のサポート、学校行事の引率補助、部活動の指導の補助、教員の事務仕事の手伝いなど、個々の学校の状況や時期によりさまざまです。
学校現場に入り、現役の先生方の指導の様子や子どもたちの実態を直接間近に見て体験できる学校ボランティアは、教員を目指す学生にとって絶好の学びの場といえるでしょう。特に、教育実習前に現場の様子を知っておくことには、実習前の不安の解消、実習に向けてのイメージ作りなどにおいて、多くのメリットがあると言われています。採用試験で重視される論作文や面接においても、実体験に基づいた回答ができることは大きな強みです。
1年次など、授業が多く空き時間が少ないときには、大学の長期休暇中に単発ボランティアをやってみる、学年が進んで空き時間ができた時には定期的な活動に挑戦するなど、少しずつでも着実に経験を積み重ねておくことが、きっと後々の役に立つでしょう。

学校ボランティアの探し方

◆各自治体の教育委員会が公募している
「学校ボランティア制度」に申し込む
【主なもの】

- ①よこはま教育実践ボランティア（横浜市）
横浜市のウェブサイト内に市内の学校の募集を一括して掲載しており、希望者が自分の条件に合う活動を選択できる。初回のみ大学での登録が必要。
- ②スクールライフサポーター（神奈川県）
小中学校で活動する上での心構えや、児童生徒への支援についての事前研修があり、いきなり学校現場へ出ることに不安がある場合には安心感がある。ただし、活動期間がある程度固定される、自分で活動先を選べない、などの不自由さはある。大学での登録が必要。
- ③東京学校支援機構 TEPRO Supporter Bank（東京都）
大学を通さず個人で登録する。登録者とボランティアを求める学校のマッチングを行うサービス。

◆各自治体・自治体の教育委員会の
ウェブサイトでボランティア情報を探す。
実際に多くの自治体がこの方法でボランティアを募集しています。

◆教職センターに直接送られてきた
ボランティア情報を参照する。
これらは教職センターの掲示版に掲示するほか、ポートヘボンにも保存しています。
ポートヘボン>履修・授業・成績>ダウンロード>教職センター>学校ボランティア案内

◆特定の学校での活動に関心がある場合には、
マナーに十分配慮したうえで、直接学校に
問い合わせてもよいでしょう。

Point! 学校ボランティアではここを見よう! ここを考えよう!

- ✓

大学の授業で学んだことが、現場でどのように活かされ、実践されているのか？
- ✓

先生方は、子どもたちや保護者の方々と日々どう接しているのか？
- ✓

学校は組織として日々どのように動いているか？（先生同士、専門家とのチームワークは？）
- ✓

学校は、社会（地域、教育行政など）とどのような連携や関係にあるのか？
- ✓

学校の現状を踏まえた、あなた自身が考える学校のあるべき姿とは？
- ✓

教師になるにあたって現在の自分の課題は何か？

学校ボランティアを経験した先輩からのメッセージ

Q 学校ボランティアを始めたきっかけを教えてください。

A 高校生の時に、小学生と一緒に遊んだり勉強したりするボランティアを経験しました。子どもたちと関わることの楽しさに気づいたことに加え、教員になるという将来の夢を実現させるため、「学校ボランティアを通して、学生のうちから実際に子どもたちと関わり、多くの学びを得たい」と考えたことが主なきっかけでした。私は高校教員を志望していましたが、小中学生が対象となっているボランティアを行いました。高校教員になるにしても、小学生や中学生の発達段階を知っておくことが生徒を理解する上で大変重要であると考えたからです。

Q 学校ボランティアの具体的な内容について教えてください。

A 2つの学校ボランティアを経験させていただきました。1つ目は、品川区立の小学校で英検対策のサポートを行う活動です。放課後の時間を使って英検の対策を行う児童が対象のもので、主に個別指導の形で子どもたちと関わりました。担当の児童が問題につまずいていたら教えたり、問題が解き終わったら丸つけをしたりするなどの活動でした。私自身が英語教員を目指しているということもあり、自分の好きな英語を生かして学校ボランティアができたことはとても楽しかったです。2つ目は、品川区立の義務教育学校で放課後に学習支援を行う活動です。この学校は義務教育学校だったので小学生と中学生が対象となっており、英語や数学などを教えました。自習している子どもたちを見守り、わからないところがあったら教えるという活動でした。どちらの活動も子どもたちとのコミュニケーションが必要不可欠だったので、いつも笑顔で積極的に関わる姿勢を持つようにしました。また、勉強を教える上では「どうしたらわかりやすく伝えることができるか」を常に意識し、子どもたちの目線に立って接することができるように心がけました。

Q 学校ボランティアをしてよかったこと、勉強になったこと、大変だったことなどを教えてください。

A まずよかったことは、「学校現場に行き、実際の様子を自分の目で見て、子どもたちと関わる経験ができた」ことです。学生のうちに学校現場を体験する機会は教育実習以外になかなかないので、大変貴重なことだったと思います。子どもたちに勉強を教えて、それを理解してくれた時のやりがいや喜びをたくさん感じることができ、とても嬉しかったです。また、現場で子どもたちと関わることは机上の知識からは得られない学びがあり、「将来教員になったら子どもたちとどう向き合いたいか」を考える良い機会になりました。
次に、勉強になったことは、「子どもたちへの接し方」です。私は学習支援のボランティアを通して、子どもたちと接する際は、ただ勉強を教えるのではなく、目の前の児童・生徒が「何をどこまで理解していて、何につまずいているのか」といった視点を持って教えることが大切だと学びました。学習支援の場でただ「答え」を教えることは簡単ですが、それだと子どもたちに「理解してもらう」ということにはなりません。でも、先述の視点を持つことによって、子どもたち一人ひとりに合った指導方法を見つけたことができ、子どもたちの理解度を高められるように感じました。これは将来教員になって授業を行う際にも生かせる視点だと思いました。そして、勉強を教える上では、子どもたちとのコミュニケーションがとても重要だと学びました。子どもたちに明るく笑顔で接することで、お互いの緊張が和らぎ、意欲的に学習に取り組んでくれるように感じました。また、学習指



高等学校英語科教諭
渡邊 理紗 Watanabe Risa

文学部英文学科 千葉県・千葉市採用試験合格

導を行う際は子どもたちのやる気を高め、その後の学習意欲につながるような前向きな声かけや褒めることを大切にするとよいということも学びました。これらのことを教員になる前に学べてよかったと思うと同時に、これからの教員人生においても生かしていきたいと考えています。
学校ボランティアを始めた当初は「初めて出会う児童・生徒に対してどのように話しかけ、どのように教えたら良いのか」悩みましたが、積極的に子どもたちと関わり、子どもたちのことを知ろうとする姿勢を持って取り組みことで、そのような悩みは軽減されていきました。また、「わかりやすく教えたい!」と思っても実際に教えてみると難しく感じることもありましたが、それを模索することも「教えること」におけるやりがいのように思え、良い学びになりました。

Q 教員を目指す在学生にメッセージをお願いします。

A 学校ボランティアは、子どもたちと関わることの楽しさを実感し、「教員になりたい!」という思いをより高めることができるものです。私自身、学校ボランティアを通して子どもたちに「教えること」のやりがいを感じることができ、とても貴重な経験になったと思っています。また、実際の学校現場に行って子どもたちと接すると、自分が教員になった時の姿を思い浮かべることができ、教員を目指す上でのモチベーションにもつながります。さらに、児童・生徒に寄り添い、理解しようとする姿勢を培うことができると同時に、「自分が教員になったらどのように子どもたちと関わっていききたいか」を考えるヒントも見つけられると思います。これから教員を目指す皆さんも、学校ボランティアに挑戦したら、きっと多くの学びを得て、「教員」の魅力をたくさん見つけることができるはずです。私は4月から高校教員として、学校ボランティアで得たたくさんの学びを学習指導や生徒指導において生かしていきたいと強く思っています。

教員採用試験の準備 3

教育現場に出てみよう

教育現場の実際をよく知るための制度のひとつに「教職インターンシップ(教師塾)」があります。ここでは近隣自治体の主な制度を紹介するとともに、教職インターンシップ(教師塾)を体験した先輩のメッセージをお届けします。

➤ 教職インターンシップ(教師塾)

教師塾は、教員志望の学生を対象に、自治体ごとにさまざまな名称で設けられています。当該自治体を目指す教育を深く理解し、実践的な指導力を身につけた人材を育成するために実施されており、多くは講義・演習とともに学校現場の体験を取り入れたカリキュラムで構成されています。自治体によっては、採用試験において塾生を対象とした選考枠が設けられていたり、試験の一部が免除されたりする制度があります。

入塾にあたっては、書類選考だけの場合もあれば、課題文、小論文の提出や面接を課す自治体もあります。教職センターでは、教職キャリアアドバイザーによる個別相談の受付は通常3年次秋学期からとしていますが、教師塾の入塾選考に挑戦する学生に対しては、学年を問わず、論作文の添削指導、面接指導など、必要に応じた支援を行っています。

首都圏の主なインターンシップ制度

活動期間、募集時期、応募資格などは各教師塾によって違います。
検討にあたっては、各自治体のウェブサイトや募集要項を確認するなど、早めに情報収集しましょう。

自治体	名称	対象等
東京都	東京教師養成塾	東京都の「小学校」「特別支援学校」の教員を目指す学生。 入塾者選抜試験受験に際しては大学からの推薦が必要。
神奈川県 おすすめ	かながわティーチャーズカレッジ	神奈川県の「小学校」「中学校」「高等学校」「特別支援学校」の教員を目指す学生。
横浜市 おすすめ	よこはま教師塾アイ・カレッジ	横浜市の「小学校」「中学校」の教員を目指す学生。
千葉県・千葉市 おすすめ	ちば! 教職たまごプロジェクト	千葉県内の「小学校」「中学校」「特別支援学校」の教員を目指す学生。応募に際しては、大学での手続きが必要。 さらに内容が充実した「千の葉の先生養成塾」に進む道もあります。
相模原市	さがみ風っ子教師塾	相模原市の「小学校」「中学校」の教員を目指す学生。
川崎市	かわさき教師塾「輝け☆明日の先生」	川崎市の「小学校」「中学校」「高等学校」「特別支援学校」の教員を目指す学生。
埼玉県	彩の国かがやき教師塾	埼玉県(さいたま市を除く)の「小学校」「中学校」「高等学校」「特別支援学校」の教員を目指す学生。
さいたま市	さいたま市教師塾「夢」講座	さいたま市の「小学校」「中学校」「高等学校」「特別支援学校」の教員を目指す学生。

※2025年1月現在のデータです。詳細は、各教師塾のウェブサイトで確認してください。

教職インターンシップ(教師塾)に参加した先輩からのメッセージ

Q 参加した教職インターンシップについて教えてください。

「よこはま教師塾アイ・カレッジ」に参加しました。アイ・カレッジでは、教師として必要な知識を講義やディスカッションなどを通して学べます。講義では、専門的な先生方が講義してくださり、危機管理や学級経営など担任を持つうえで必要なことから個別最適な学びやICT教育など現在求められている取り組みまで、幅広く学びを深めることができます。さらに、グループで話し合ったり講義後にクラスに分かれて活動したり少人数での活動の時間も多く取られているため、先生方がしっかりと一人一人サポートしてくださいます。

また、講義以外で「教師体験プログラム」というインターンシップの活動があります。そこが講座で学んだことを実践できる機会となり、子ども達に対する理解と実践力を養うことができました。現場の先生方からも学ぶことが多く、子ども達との接し方や効果的な教え方、困り感のある子どもへの適切な対応の仕方なども勉強になりました。



小学校教諭
光木 萌恵 Mitsuki Moe
心理学部教育発達学科
横浜市教員採用試験合格

Q 参加したきっかけを教えてください。

教員採用説明会で養成塾があることを知り、実践的な学びが多いことや横浜出身ではない私にとって横浜市の教育について詳しく知れるよいきっかけになると思い、申し込みしました。また、一次試験が免除ということも、4年次に余裕を持って試験対策に臨むことができるのではないかと考えました。

Q 教職インターンシップを経験してよかったことは何ですか？

アイ・カレッジでは、幅広いアプローチで教育について深く学べました。特に私が印象に残っている講義は「傾聴」についての講義です。そこで体験的な活動を行うことで、子ども達に対する傾聴の姿勢や信頼関係の築き方なども考えを固めることができました。また、クラスに別れて学級会を行ったり、模擬授業をしたりすることで、自分たちが子ども達の視点に実際に立てることが多くありました。そのため、教師という立場になった際にどのようなところに気をつけていくべきか客観的に考えるよいきっかけになったと思います。自分で授業を行うだけでなく、他の学生の授業を見ることがや先生から詳しくフィードバックして頂けたことで改善すべき点が明らかになり、今まで考えてこなかった発問方法や展開を見直すきっかけとなり、教育実習にもそれらを活かすことができました。他大学の教員志望の学生と関われる機会は中々ないため、アイ・カレッジの友達と教員採用試験や説明会の際に会えた時はとても嬉しく、心強く思いました。

また、教師体験プログラム(学校でのインターンシップ活動)は、学んだことを活かすとともに、自分の課題にも気づくことができるとてもいい機会となりました。私は主に低学年に入っ

いたのですが、クラスには授業で飛び出してしまう児童や「やりたくない」の一点張りであった児童がおり、初めは声掛けの仕方に困難を感じていました。しかし、ただ活動に戻るようにするのではなく、違うことに注目させてから活動に戻ってみたり、少しでもできたら最後に「できたね」と褒め、活動の価値づけをしたりすることによって前向きに取り組んでくれることが多くなりました。このことから、児童と信頼関係を築くためには、まずは児童に寄り添い、不安に思っていることを取り除いてあげることが必要であると考えようになりました。

Q 教員を目指す後輩たちへ一言

アイ・カレッジでは、大学での講義とはまた違った実践的で体験的な学びが多くあります。通っている間にも何度も自身の教育に関する知識が更新され、成長を実感できる環境が整っていました。3年生ではまだ授業も多く、教員採用試験も遠いため、毎月の講座や課題に関して不安に思うことがあるかもしれませんが、実際に私も教員採用試験の倍率や大学の課題との両立を考え、ギリギリまで申し込みを迷っていました。しかし、通ってみて教育実習でもボランティアでもこれらの知識が役立つ場面が沢山あり、本当に参加してよかったなと思っています。これは今後、教師になった際にも活かされると思います。実践的なスキルや指導法と同じ目標を持つ仲間たちと切磋琢磨しながら学べるので、横浜で教員になりたい方はぜひ参加してみてください。

教員となる 先輩たちからの メッセージ

教員採用試験に合格した先輩たち。
これから教員として教壇に立つ
先輩たちにどのような大学生活を
送ってきたかを聞いてみました。



特別支援学校

吉弘 将悟

特別支援学校教諭

Yoshinobu Shogo
社会学部社会福祉学科
神奈川県採用試験合格

教員を目指したきっかけ・理由を 教えてください。

元々子どもと関わるのが好きで、教育関係の仕事につきたいと思っていました。小さい頃から障害のある人と関わる機会が何度かあるなかで、ある日一つのエピソードを思い出しました。障害によって指の動きが難しく、玉ねぎの皮を剥くことが難しい方がいたのですが、支援者の方が初めの部分だけ切り込みを入れてあげることで、皮を剥くことができたというエピソードです。その時の本人の嬉しそうな表情が忘れられませんでした。障害のある方への支援を通じ、彼らの活動の幅が広がり成長につながっていくことを学びました。私も生徒の視点に立って、ともに成長していきたいと思い、特別支援学校の教員になりたいという目標ができました。

大学生活で教員になるために 取り組んだことを教えてください。

児童・生徒の見守りや授業補助などの学校

ボランティアです。特別支援学校での学校生活を送ったことがなかったため、先生方の動きや多様な生徒とのかかわりを沢山勉強させていただき非常に貴重な経験となりました。重度障害者の生涯学習に向けた訪問教育に補助として参加する機会もありました。重度障害者の方の中には、学校への登校が難しい方や、医療的ケアを行い社会生活に参加することが難しい方もいらっしゃいます。そのような方々に対して、興味のあることや季節にまつわることなどに関する勉強を行う活動です。生涯学習の観点で非常に有意義な活動と感じましたし、何よりなかなか社会に自分から出て行くことができない彼らにとって、人とかかわる貴重な機会で、嬉しそうな表情をしていたことが印象的でした。

教採の準備を始めた時期は いつ頃ですか？ 勉強方法なども教えてください。

この大学・学部に入学が決定した時には特別支援学校の教採を受験しようと考えていました。大学生活で他の職業もいいなと思ったこともありましたが、大学3年で周囲が就職活動を始めた頃には、教員一本で準備しようと決意しました。準備を始めた時期は大学3年の夏休みでした。初めは特別支援学校の専門科目と、教職教養、一般教養の参考書を読み込むことに時間を割きました。自宅から大学までの通学時間などのスキマ時間を見つけ確認したり、少しでも時間があいたときに確認ができるよう、参考書は持ち歩いていました。3年の春休みごろには、小論文対策を始めました。初めは解答時間を気にせず、パソコンに打ち込み文章の構成や内容を固めることを

意識しました。6月頃から実際に解答時間を設定して手書きで書く練習を始めました。同じく3年の春休み頃に、大学で申し込んだテキストの問題集や全国の過去数年の過去問を繰り返し解きました。間違えた問題は、解説を読んでなぜ間違えたのかを確認し、ノートにまとめていつでも確認できるように心がけました。二次試験の面接対策や模擬授業は、一次試験後すぐ準備を始めました。面接は、過去問を参考に、質問に対する答えを箇条書きでノートにまとめる作業を繰り返しました。また、社会福祉学科の先生や教職課程の先生、教職キャリアアドバイザーの先生にも面接練習をお願いし、それぞれからいただいたアドバイスを参考に、改善すべき点を減らしていきました。模擬授業は、教職キャリアアドバイザーの先生と一緒にお題となるテーマからどのような構成にするのか設定しました。学科の先生や教職キャリアアドバイザーの先生に授業を見てもらい、作成した掲示物の見やすさや、重点的に伝えるべき部分について沢山アドバイスをいただきました。実際に練習を繰り返すことで、制限がある中での時間配分がどんどんわかってくると思います。

教採の受験勉強・対策の中で 特に大変だったことは何ですか？ どのように乗り越えましたか？

私は、どちらかというと時間をかけて文章を考えるタイプなので、決められた時間内にかんりの文字数を書く必要がある小論文には苦手意識があり、苦労しました。しかし、教職キャリアアドバイザーの先生に書き方を沢山指導していただき、練習を繰り返すことで少しずつ慣れていきました。先生方は教員の先輩でも

あり、幅広い知識をお持ちであるため、アドバイスを受けて教職に関する見方を広げることができました。ボランティアで感じたことや、これまでの生活で経験したことを小論文に盛り込むことを意識し、先生方に添削をしていただいたことで、自分の文章を固めることができました。小論文対策は非常に苦労しましたが、ここで考えたことは面接練習にもそのまま活用することができるので、自分にとって力になるのは間違いないと思います。

自分の教採受験を振り返って、 もっとこうすればよかったな、 と思うことはありますか？

二次試験対策はもう少し早く始めたほうが、気持ちの面で余裕が持てたのかなと思います。私が模擬授業や面接の対策を本格的に始めた時期は7月上旬の一次試験終了後で、そこから1ヶ月弱で二次試験があったため、時間的にも気持ちの面でも焦りや不安が強いまま本番を迎えてしまいました。また、神奈川ティーチャーズカレッジなどの教職インターンシップは応募しておいたほうがよかったなと思います。他の参加者の良い点を参考にすることができ、教職に関する知識をより深めた状態で教採に臨めますし、何より一次試験が免除となるため、より二次試験に時間をかけてしっかりと対策することができたのではないかと感じました。

教職センターの利用について 教えてください。

教職キャリアアドバイザーの先生方との面

談は週に1～2回予約し、小論文の他、受験時に提出する自己アピール書や面接カードの添削もしていただきました。文章のクセを指摘していただくだけでなく、先生方との会話を通じて、自分のアピールしたい部分を明確にすることができました。

また、一次試験終了後は二次試験に向けた面接と模擬授業の練習を行い、話し方などを含めさまざまなアドバイスをいただきました。マンツーマンで反復練習することはもちろん、同じ校種で受験する仲間とも合同で練習を行いました。良いなと思った部分や自分が思いつかなかった考えを参考にすることができ、非常にいい刺激を受けました。また、教職センターでは、参考書や過去問を沢山借りました。受験する自治体だけでなく、色々な自治体の過去問があるため、さまざまな問題に対応できるようになりました。自信がついたのはこのおかげかなと思っています。

自身が考える 「教員採用試験の合格の秘訣」は 何ですか？

試験までの期間から逆算して勉強することだと思います。私の場合は、5月中旬から6月上旬にかけて教育実習があり、採用試験は、教育実習が終わって1ヶ月後でした。教育実習期間は採用試験の勉強をしている余裕はなく、実習を終えた後は、以前勉強した知識が少し抜けていることを実感しました。そのため、実習後に新しい知識を全て詰め込むことは難しいと感じました。余裕を持って試験に臨むためには、実習開始までに一通りの学習を終えておいて、実習終了後から試験までの間を、実習

期間前に覚えた知識を復習する期間に充てた方がいかなと思います。

また、面接ではあらかじめ決めた定型文をそのまま言うのではなく、自分の考えを自分の言葉で伝えることが大切であると思います。緊張すると頭が真っ白になり、何を話せば良いかわからなくなることがあります。そのため、一言一句話す文章を暗記するのではなく、質問に応じて柔軟に対応できる力を身につけることが重要です。そのためには、知識を深めるとともに、自分の考えをしっかりと整理することが必要だと考えます。

教員を目指す在学生へ メッセージをお願いします。

教員採用試験は一般的な就職活動と異なり長期戦で、合格発表が比較的遅い時期にあります。そのため、他の友達が就職活動を終えている姿を見て不安に思うことがあると思います。自分の思い通りにいかないこともあると思います。しかし、家族や教職センターの方々、教職キャリアアドバイザーの先生方、教職課程の先生方、そして同じ授業で出会った仲間たちが味方となってくれます。辛いなと思った時は1人で抱え込まずに周りの人を頼りアドバイスをもらったり、リフレッシュを兼ねて趣味に打ち込むことも大切だと、試験勉強中に感じました。

自分なりの学習方法を確立し、努力したことを信じて合格への歩みを進めてください。教員を目指すみなさんが100%の力を出し切って合格できますように。応援しています!!

教職キャリアアドバイザーから見た合格までのみちのり

教職センターを上手に活用し、教員採用試験に合格した吉弘さんの取り組みをご紹介します。

論作文に苦手意識を持っている方は多いと思います。テーマに対する知識は必要ですが、同様に指導感やその根拠をその人らしい形で表現することが大切です。吉弘さんも苦手意識がありましたが、同じテーマで納得いくまで何度も書いては添削を希望し、良い文章の型を身に付けていきました。「書き慣れる」という「量」が「質」と自信につながっていったと思います。

面接対策は、「個別」での練習と合わせて「集団」の練習にも参加しました。同じ校種を受験する仲間の回答から、自分にはない視点に気づき、回を重ねるごとに答え方のバリエーションが増えていきました。また、面接ノートを作成し、自治体の方針や自己アピールなどを整理していました。当日緊張しても、自分の言葉

で答えることができたのではないのでしょうか。

模擬授業は、始めの10分間(自治体により内容は異なります)を行います。導入、展開、まとめまでしっかりイメージを作って臨んでいました。教材の準備は大変だったと思いますが、教材を作ることで授業のイメージが広がり、子どもたちへの話しかけ方が変わっていったことが印象的でした。

特別支援学校の場合、採用試験後に教育実習があります。学校、授業や子どもの様子、先生方の関わり方などが学べる貴重な機会です。そこで、3年生から**学校ボランティア**を行い、実践的な経験を積んできました。また、障害者スポーツや生涯学習の活動に積極的に参加したことにより、障害のある方の「生活」のイメージを拡げることができたようです。これらの経験は、模擬授業や面接で大きな力を発揮したことでしょう。

教員採用試験合格は、ゴールではありません。教員としてスタート地点に立つということです。試験対策が子どもたちの前に立つ自信となることを願ってやみません。



2024年度教職キャリアアドバイザー
奥野 康子先生



小学校

橋谷 玲子

小学校教諭

Hashitani Reiko
心理学部教育発達学科
横浜市採用試験合格

教員を目指したきっかけ・理由を教えてください。

小学校の頃、担任の先生が面白く楽しい授業をしてくださったり、行事活動も思い出に残る活動ができたこと、小学校の教員という職業に憧れを持ちました。大学2年生では、週に一度小学校での学習アシスタントを通して、現場の先生方が子ども一人ひとりに寄り添う姿や関心が高まる授業を行う姿に熱意を感じ、教職への魅力を感じました。そして、社会性・人間性の基盤となる児童期の子どもたちを近くで支え共に成長できる喜びを知り、子どもの育成に携わりたと思いました。

教採受験を決心した時期、準備を始めた時期はいつ頃でしたか？勉強方法なども教えてください。

大学入学時、教採受験は決めていましたが、受験自治体は決まっていませんでした。その後、教員を目指す学生が教師としての資質を高め合う教師塾が自治体ごとに行われていることを知り、3年次前に受験自治体を決め、よこはま教師塾「アイ・カレッジ」へ入りました。「アイ・カレッジ」では、授業実践や寄り添う児童対応や実際の学校現場で活用されるICTを用いることで、ICTの学習効果について学びました。小学校・中学校の教員を目指す学生が集まるため、

異なる経験を互いに共有することで学校教育の理解を深めることができました。

教採の対策としては、大学3年の2月頃から論作文の練習を始めました。論作文では、過去問を解いて、教職キャリアアドバイザーの先生に添削していただきました。横浜市では模擬授業が試験に含まれるため、模擬授業の対策も、一次試験が終わった7月から始めました。学生と先生方の前で実際の授業を行い、フィードバックをいただいたり、授業のテーマを学生同士で出し合って構想を立てたりしました。教科書だけでなく、学生同士の経験からも授業を考えることで、多様な授業案ができ、有意義な学びの場でした。

教採の受験勉強や対策の中で、特に大変だったことは何ですか？そして、それをどのように乗り越えましたか？

横浜市の模擬授業の試験はテーマが直前に決まるため、様々なテーマで授業案を考える必要があり、対策が大変でした。さらに、二次試験まで1ヶ月という短い期間で仕上げる必要があったため、プレッシャーも感じていました。しかし、試験勉強と一緒に友達、指導して下さる先生方の存在が大きく、焦らずに取り組むことができました。多くのテーマに対応できるよう、友達と授業案を共有したり実際に授業を見せ合ったりすることで引き出しを増やすことができました。

教職センターをどのように利用しましたか？

教職センターでは、論作文の添削や面接練習・模擬授業など、試験全般の指導をしていただきました。キャリアアドバイザーの先生方はとても温かく、試験や進路について不安なところがあると、その度に話を聞いてくださいまし

た。試験勉強のスケジュールも一緒に考えていただいたことで、安心して試験に臨むことができました。試験対策の講座では、他の学生達と一緒に授業を考えたり実践したりしました。自分にはないアイデアを得ることができ、この先の教員人生でも活かせる貴重な学びの機会であったと思います。

自身が考える「教員採用試験の合格の秘訣」は何ですか？

合格の秘訣は、キャリアアドバイザーの先生方や学生たちと一緒に取り組んだ試験勉強だと考えます。同じ教員を目指す学生達がいることで、勉強に不安な時や試験について心配なこともすぐに話して解消できたことが、とても良かったと思っています。先生方・周りの友達と一緒に試験勉強に取り組むことで、一人で参考書と向き合うだけでは得られない力をつけることができたと思います。また、試験勉強中に大切だと感じたのはやはり体調管理です。当日に体調が万全でなければ、100%の力を出し切ることはできないと思います。直前こそ詰め込みすぎず、今までの勉強が定着しているかアウトプットする時間も重要だと感じました。

教員を目指す学生へメッセージをお願いします。

可否発表まで時間も長く、試験前・試験後も不安な時間を過ごすこともありますが、今その時を振り返ると、勉強してきた時間や学びは無くなるものではないので、一生懸命取り組んで良かったと思っています。自分で満足いくまで取り組んだことは、「ここまで勉強してきたんだ」という自信に繋がりました。先が分からないことへの不安や心配がありますが、周りの友達、家族、先生方を頼って話をしてみてください。誰かと一緒に試験に臨んできると、安心して前へ進めると思います。応援しています。



中学校・高等学校（英語）

高等学校英語科教諭

西坂 里衣那

Nishizaka Rina
文学部英文学科
千葉県・千葉市
採用試験合格

大学生活で教員になるために取り組んだことがありましたら教えてください。

一つ目は学校ボランティアです。教員の仕事や子ども達との関わり方を知りたいと思い、大学1年の時から行っていました。「品川地域未来塾」では、品川区立日野学園で、小中学生を対象に放課後学習支援を行いました。大学2年次には、「よこはま教育実践ボランティア」で小学校の宿泊体験学習の引率補助を行いました。引率の経験は特に思い出深く、2日間、現場の先生方とともに行動し、養護教諭や管理職を含め、連携した対応を行う大切さを感じました。

二つ目は、玉川大学の通信課程で小学校の2種免許状を取得したことです。教員としての指導の幅を広げるために、大学3年次から2年にわたり学修しました。小学生の発達段階を踏まえることで、中高生がどのような過程を経て成長していくのか理解が深まりました。また、外国語だけでなく国語の指導法など他教科について学ぶことで、言語の働きを学ぶことについて改めて向き合うことができ、どのような英語の教員になりたいか、理想像を持つことにつながりました。

教採受験の準備を始めた時期はいつ頃でしたか？勉強方法なども教えてください。

民間企業のインターンシップも経験しましたが、教員になりたいと強く思い、大学2年の3月から本格的に勉強を始めました。大学3年次受験「夢チャレンジ選考」を受験した際には、大学の授業や課題などで時間が限られていたことから、過去問から出題傾向を分析し、時事通信社の通信講座教材を使い勉強を進めました。教職教養は、参考書と映像授業を活用して、幅広い単元を大学の授業で学んだことと関連付けながら理解を深めました。専門教養（英語）は、過去問を中心に対策を進めました。時間内に解けるようにすること、復習を丁寧にすることを心掛けました。学習指導要領に関する出題は、中学校の目標・内容を中心に、小学校や高等学校との違いを意識しながら学習しました。過去問演習は、受験する年の5月下旬頃から本格的に始め、多いときは1週間に3分解くようにしていました。

二次試験対策は、一次試験終了後すぐに始めました。教職キャリアアドバイザーの先生、教職課程の先生方に、何度も面接の練習をしていた

できました。練習を通じて気づいたこと、ご指導いただいたことをノートにまとめ、自分の言葉で伝えられるようにしました。模擬授業や実技試験などの専門科目は、英文学科の夏休み集中講習の中で練習と改善を行いました。一次試験の結果が出てから限られた日数のなかで、ご指導いただいたことを自分のものにできるまで練習をすることを意識しました。

教採の受験勉強・対策の中で特に大変に感じたことはありましたか？どのように乗り越えましたか？

3年次受験合格後、1年後の試験までに勉強のモチベーションを保つことが大変でした。3年次に合格すると、翌年は筆記試験がなく、二次試験（面接や実技試験、模擬授業）だけになります。ただ、二次試験でも、教職教養、専門教養の知識は欠かせず、常に新しい情報を収集することが必要です。私の場合、「夢チャレンジ選考」で合格をいただいたことは幸いでしたが、大学の授業だけでなく、小学校免許の通信課程の勉強もあったため、教採に向けた勉強との両立に苦戦しました。今振り返ると、当時は常に焦っていて、目の前のことに集中できない状態が続いていたと思います。計画を立てることはもちろん重要ですが、3年の秋ごろは、優先順位を付けて勉強することを心掛けました。この時期は、月刊教員採用セミナーを読み込み、教育トレンドを把握することに絞りました。

自分の教採受験を振り返って、もっとこうすればよかったな、と思うことはありますか？

私は5月下旬頃に面接練習を始めましたが、面接に対する苦手さをものすごく感じていたの、相当焦っていました。もう少し早い時期から、友達を含めた色々な人と面接練習をしておけばよかったと思います。反対にやっておいてよかったことは、英検準一級を大学2年次のうちにとっておいたことです。自治体によっては、専門科目が免除になります。準一級のレベル感に慣れておくことが、過去問を解くときに役に立ちました。

教職センターの利用について教えてください。

出願書類の作成から2次試験対策まで、多い

時は週に1～2回、教職キャリアアドバイザーの先生にご指導いただきました。志願理由書は、目指したい教員像や教育観を記載することが多いので、私は2月頃から時間をかけて作成しました。先生は私が表現したいことを汲み取り、文章と一緒に考えてくださいました。また、先生とお話することで、教員を志した理由や理想像が明確になりました。面接対策や模擬授業では、練習でうまくいかなかったところを集中的にご指導いただいたり、答え方に困ったときの対応方法について助言をいただいたりしました。

教員を目指す学生へメッセージをお願いします。

教員採用試験は、試験範囲が広い上に、合否が出るのが4年次の10月頃と大変長期に渡ります。結果が出るまでに時間がかかるので、私も何度も心が折れそうになりましたが、教員として働かれている卒業生の姿に強い憧れを抱き続けながら、Next teacherを愛読してモチベーションを保ち、勉強に向き合えたと思います。社会人としての一歩を踏み出すために、そして夢や憧れをかなえるために費やした時間、苦勞、努力は、これからの人生の糧になります。そして、教員になれると決まったときの喜びは何事にも代えがたい、人生で一番うれしい瞬間でもあります。試験対策を通じて確固たる夢を持ち、その実現に結びつけられるよう頑張ってください。応援しています！

幼稚園

幼稚園教諭

水谷 光里

Mizutani Hikari
心理学部教育発達学科
特別区職員（保育・教育枠）
採用試験合格

読みました。その後、教職キャリアアドバイザーの先生方のもとで小論文の勉強をしました。何度も書くうちに自分の書き方ができていき、時間内に指定文字数で書き上げることができるようになりました。

**教採の受験勉強や対策の中で、特に大変だったことは何ですか？
また、どのように乗り越えましたか？**

2次試験の対策が大変でした。実技試験では初見の問題で指導案を書き模擬保育を行うため、自分の中に保育の引き出しがなくてはならず、初めは時間内に構成を練って実践することができませんでした。しかし、教職キャリアアドバイザーの先生方に見ていただきながら問題数をこなすことで、徐々に自分の動きや子どもへの声の掛け方がまとまるようになりました。面接対策では、長所短所や自己PRを話せるようにするための自己分析が難しかったと感じています。家族や教職キャリアアドバイザーの先生方といった客観的に見てくださる人にアドバイスをもらうことで自分を見つめ直すことができたと思います。

教職センターをどのように利用しましたか？

教職キャリアアドバイザーの先生方に試験対策をしていただきました。特に1次試験前は毎週面談を申し込み、小論文の練習をしました。自分一人では難しい勉強も、一緒になって考えてくださったり添削をしていただいたりしたことで徐々に力をつけることができました。また、試験対策以外にもどのような幼稚園に就職したいのか、進路の方向性についても相談させていただきました。知識と経験が豊富な先生方がいつでも話を聞いてくださったりアドバイスをくださったりする環境は、とても安心材料になりました。

教員を目指したきっかけ・理由を教えてください。

小学生の頃に年下の子と関わるのが多くあり、お世話をすることと一緒に遊ぶことが楽しいと感じていたことがきっかけです。中学生以降、職場体験やボランティア活動を通して幼稚園や保育園に行き実際に子どもたちと関わる経験をして、子どもたちの成長を間近に見られる幼稚園教諭という職業に就きたいと思うようになりました。

大学生活で教員になるために取り組んだことがあれば教えてください。

大学3年生の秋ごろから、港区立の幼稚園で介助員を始めました。初めはどのように子どもと関われば良いのか、どのように動けば良いのかなどわからないことが多くありました。その都度先生方にお話を聞きながら実践することが、自分自身が成長できる貴重な機会になっていると思います。また、現場で働く先生方の姿を見ることは大学の授業ではできないことなので、座学に加えてより実践的に学ぶこともでき、教育実習や就職活動の際に自分の力になったように感じています。

**教採受験を決心した時期、準備を始めた時期はいつ頃でしたか？
勉強方法なども教えてください。**

元々幼稚園教諭になりたいという思いはありましたが、私立幼稚園への就職も迷っていました。特別区の受験を決心したのは大学3年生の冬ごろです。その理由は、子どもの遊びを大切にしている部分に魅力を感じたからです。受験を決めてからは、まず幼稚園教育要領の勉強を始めました。内容が難しい部分もありましたが、自分なりに重要だと思う箇所にマーカーを引き、知識が定着するよう繰り返し

部活で、他の4年生が就活を終えて最後の大会に向けて練習に打ち込む中、自分は教採のこととも考えないといけないというもどかしさがあり、とても辛かったです。

教職センターの利用について教えてください。

まず、教職キャリアアドバイザーの指導がとても役に立ちました。主に、小論文の添削と面接練習を行いました。自分が実際に練習で書いた小論文を何度も提出し、添削してもらうことで段々と文章力が向上し、文の構成や書き方のポイントなどの技術的な部分もアドバイスしていただきました。面接練習では、どのくらいの速さで話せばいいのか、どのくらいの長さで話せばいいのかなど基本的な部を指導していただきました。これらのことを繰り返していったため、自信を持って教採に臨むことができました。

また、面接対策では教員採用セミナーも非常に役立ちました。自分自身、様々なテーマに対して面接練習ができるという点がとても良い経験になると同時に、他の人の面接練習の様子から得られる学びもあるため、非常にためになるセミナーでした。

教員を目指す在学生へメッセージをお願いします。

教員という仕事は本当に魅力あふれる職業だと思います。教員になるためには様々な壁を乗り越えなければなりませんが、強い気持ちを持って早くから丁寧に対策を行えば絶対教員採用試験にも合格できると思います。また、教職課程の先生や教職キャリアアドバイザーなど、多くの人に頼りながら対策を進めていくことも大切だと思います。たくさんの人と関わり合いながら、自分の目標を達成できるように頑張ってください。応援しています。

める教師像についての講義もあり、より横浜に密着した学びも得ることができました。このアイ・カレッジ卒塾により、横浜市教員採用試験の一次試験が免除になりました。

**教採受験を決心した時期、準備を始めた時期はいつ頃ですか？
勉強方法なども教えてください。**

教採受験を決心したのは、大学3年の10月頃です。アイ・カレッジでの活動が進んでいくにつれて教師になりたいという気持ちが高まっていき、横浜市の教員採用試験を受けようと思いました。準備としては、アイ・カレッジでの学びとボランティアによる実際の教育現場での経験がメインでした。具体的に二次試験の勉強を始めたのは少し遅めの大学4年の5月からです。6月に教育実習があったため、5月に全力で集中して学び、短期集中で小論文対策を行いました。7月以降は教科書をひたすら読み込み模擬授業対策をしました。そして、教員採用セミナーや教職キャリアアドバイザーとの面接練習も並行して行いました。

**教採の受験勉強・対策の中で特に大変だったことは何ですか？
どのように乗り越えましたか？**

模擬授業の対策が一番大変でした。一次試験が免除だったことにより、教科の専門知識という点では少し不安があったため、ひたすら教科書を何周も読みこみました。横浜市の出題形式は当日呈示される3つのテーマから1つ選び模擬授業を行うという流れだったため、広い範囲をカバーできるような知識を身に着けることがとても大変でした。もっと早くから専門科目の勉強をやっておけばよかったと感じました。

また、時期が遅いという点も辛かったです。周りの人が内定をもらっていく中、自分は試験に向けてひたすら対策することや、所属していた

中学校社会科教諭

佐藤 健太

Sato Kenta
心理学部心理学科
横浜市採用試験合格

中学校・高等学校（社会）

教員を目指したきっかけ・理由を教えてください。

私はいじめを受けている子や不登校の子、様々な障害を抱えている子と仲良くなることが多く、そういった子の支援に早い時期から関心を持っていました。さらに最近では、通常学級の中にいる、発達障害などと診断はされていないけど、そのような特徴を持ち何か小さな困難を抱える生徒に対する支援についてより興味を持ちました。そして、そのような生徒を支援するために、自分自身が教師となり、誰もが安全安心で居心地の良い学校を作り、持続可能な社会を実現できる子どもを育てたいと思い教師を志望しました。

大学生活で教員になるために取り組んだことを教えてください。

まず、大学2年の5月頃からよこはま教育実践ボランティアを行いました。基本的に個別支援学級で活動することが多く、特別な支援を必要とする生徒と関わる経験を積むことができました。その他にも、自然教室や修学旅行などの校外学習の引率も経験することができました。早い時期からのこうした経験は自分の自信となり、実際に教員採用試験の面接などで話せることの幅が広がりました。

次に、大学3年の9月頃から3月頃にかけて、よこはま教師塾アイ・カレッジに参加しました。ここでは、教職についての基礎的な知識や能力を培うための講座や体験学習を受けました。また、横浜で行われている教育実践や横浜の求

学校教員の魅力とは？

教職キャリアアドバイザー

教職センターでは、現場経験豊富な先生が、「教職キャリアアドバイザー」として教員をめざすみなさんのさまざまな相談に対応しています。幼稚園、小学校、中学校・高等学校、特別支援学校それぞれの学校で園長や学校長として活躍してこられた経験豊富な先生方から、教員の魅力を皆さんにお伝えします。



幼稚園担当 川副 園美 Kawazoe Sonomi

幼児の「やりたい」「がんばりたい」を支える保育者に！

幼児は、やりたいことが見つかる楽しそうに遊びだします。遊びの中で小さな発見や気づきがあると夢中になって遊びが続いていきます。時には集中して真剣な表情に変わっていることもあります。どの幼児の顔も、遊びを楽しんでいる顔は輝いています。

幼児期は、生きる力のもとになる非認知能力（自己肯定感、意欲、協調性、社会と関わる力等）が育つ時期です。また、その能力は遊びを通して身についていくと言われています。その『遊び』を支えていくのは幼児の身近にいる保育者の存在です。

幼児一人ひとりを丁寧に理解し、幼児の「やりたい」「がんばりたい」という思いを支えていくことが保育者に求められる姿だと考えます。

学生の皆さんは理論や実践を積み重ねながら保育の楽しさや難しさに出会っていくことと思います。皆さんにとっても「やりたい」と「がんばりたい」気持ちは自分自身の成長を支えていくことになります。一緒に保育について学んでいきましょう。



幼稚園担当 新井 智子 Arai Tomoko

子どもと感動を共にする未来が待っている

幼稚園教諭の多くが、仕事に就いた動機を「子どもが好き 幼稚園時代が楽しかった 先生がやさしかった」と話します。自分自身の幼い頃の体験が、職業を決定するほど心に残っているのです。もちろん、今もやりがいを感じながら生き生きと幼児教育に携わっています。子どもたちに遊びを通して様々なことを学んでほしい、生きる力の基礎を培ってほしいと、情熱をもって指導している姿に頼もしさを感じます。

同時に、教師自身が子どもたちの夢中になって遊ぶ姿に感動し、その姿から多くを学び、成長していることに気付かされます。子どもたちは、哲学者で

あり、科学者であり、クリエイターであり、そして柔らかで澄んだ心の持ち主です。

未来社会がどのように変化しても、大切なのは活力に満ちた人間中心の豊かな社会です。学校教育においても、その基礎である幼児教育を担う教師が、子どもたち一人ひとりに「豊かな子ども時代」を保証していかなければなりません。子どもが夢中になって遊ぶ姿にこそ豊かさの源があります。学生の皆さんには、「先生」として子どもと感動を共にする素晴らしい時が待っています。実現に向け、知識や実践力そして人間性を高める学びを深めていきましょう。



小学校担当 中嶋 のり子 Nakajima Noriko

きっと教師になってよかったと思える

以前、勤めていた学校で、教員になって一年目の職員の出発計画の冊子の中に以下のような記述を見つけました。

金曜日にマット運動の最後の授業を行いました。初めてのころと比べてできる技が増えたり、よりきれいにできるようになったりした児童の姿を目にして感動しました。そして、できるようになったことを喜んでいる児童の姿を見て私自身もうれしくなりました。授業を通して「できた」「わかった」と思えることの大切さを改めて感じ、これからは教材研究を大事にしていこうと思いました。

この文章の中には教職の魅力が凝縮されています。教職の魅力はいろいろありますが、その中でも特に次の三点が得難い魅力だと思っています。

- 一 感動する場面があふれています。
子供は教員の言葉かけ一つ、ほんの少しの手助けで、大きく成長する可能性を秘めています。関わる度合いが大きいほど感動も大きくなります。
- 二 大きなやりがいがあります。
「忘れられない人」に自分の恩師を挙げる人は少なくありません。次代を担う子供たちの成長に大きく関わることは、責任の重さとともに、大きなやりがいを感じる職業でもあります。
- 三 仲間とともに成長できます。
教師は利潤を求めず、常に、「子供のために」行動します。ですから、皆、ライバルではなく、仲間なのです。
皆さんもきっと「教員になってよかった。」と、思える日がくると思います。



中学・高等学校担当 金子 勉 Kaneko Tsutomu

未来永劫に 人類の尊い営み

AIに象徴される科学技術の進歩はあまりに急速ですが、何故かすぐに古くなります。それに比べて、子どもの躰や教育活動は、有史以来未来永劫無くならない不滅の営みだと言われます。

「銀の金も玉も何せむに まされる宝子に如かめやも」山上憶良（万葉集）

まさしく子は宝です。その子の将来に一介の教師が光をあたえ、生涯にわたる希望をもたらします。また真逆のこともあり得ます。あまりに影響力が強いので世の批判を受けることも稀ではありません。そのくらいに厳しく奥の深い職業です。

しかしそれだからこそ、成就したときの歓びや遣り甲斐は何事にも換えられません。「苦しみ経ての喜び」は生涯にわたって味わえる喜びです。

企業が血道をあげるような即物的で利的那な営利には価値を置かず、大仰に言えば人類の幸福や平和のために教員は粉骨砕身します。

そんな尊い教育職に情熱を燃やす若者を歓迎します。地道に努力をし、明学の多くの先輩達に続くようとする後輩を私たちは心から応援します。



中学・高等学校担当 田中 顕治 Tanaka Kenji

教員のミッションは“Do for Others”

教員の魅力とは何か。これは教員一人ひとりによって異なると思います。現在、教員の仕事に対して「ブラック」と称されることが少なからずあります。日本の教員は、学習指導、給食指導、清掃指導、生活指導、進路指導、部活動、保護者対応など、多岐の業務をこなしています。

2024年12月4日、国際教育到達度評価学会によると「国際数学・理科教育動向調査」で、日本は算数・数学で5位以内、理科でもトップレベルを維持したと、結果が公表されました。2022年に実施された国際学力調査「PISA」でも数学的リテラシー、科学的リテラシー、読解力のいずれも5位以内と

いう順位を占めています。このように日本の教育は世界でも高い水準にあるといえます。それを支えているのが教員なのです。日本の教員の質は世界のトップレベルにあると小生は信じて疑いません。

ある研究所300人のシニアの人に「あなたが取得して良かった資格は何ですか？」という問いの1位は運転免許証ですが、教員免許は4位に入っています。教員の仕事は次世代を育てる働きがいのある仕事であるのみならず、私たちにとても一生涯の仕事になりうるものです。教職課程の門を潜ってみませんか。



特別支援学校担当 岩瀬 昌保 Iwase Masayasu

子どもたちの未来のために

「なぜ特別支援学校の教師になろうと思ったのですか」と問われたら、皆さんは、そのきっかけと覚悟を、それぞれの言葉で語れると思います。

特別支援学校は、子どもたちの未来に向けた生きる力を育む学校です。普通学校のように予め決められた教科書はありません。教師は、一人一人に合った目標を立て指導計画を作成し、教師同士で協力しながら、子どもたちに合う指導方法や教材を創り上げていきます。子どもたちは、教師との関わりを通してゆっくりと成長し、必要な支援を得ることで素晴らしい可能性を発揮します。子ども

たちの成長を実感したとき、教師としての喜びとやりがいを感じるでしょう。ただ、うまくいかないこともあります。その時は、子どもとの関わりを振り返りながら、「子どもから学ぶ」ことを大切にしながら教師も一緒に成長していきます。

特別支援学校のみならず、普通校においても特別支援教育の重要性は高まっており、教師の持つ専門性として欠かせないものとなっています。学生の皆さんは、特別支援教育の知識と実践を積みながら、すべての子どもたちのための教師になれるよう学んでいきましょう。

学校教員の魅力とは？

小学校担当 岩成 真澄 Iwanari Masumi

子どもと共に未来を描く仕事です

皆さんは、小学校、中学校の先生のことを覚えていますか。ほとんどの人は、すぐに先生たちの顔や名前が浮かんでくることでしょう。授業のことはほとんど忘れてしまっているかもしれませんが、褒められたことや叱られたこと、何気ない一言をふと思い出すことがあるかもしれません。中にはそれが教職を志すきっかけとなった人もいるでしょう。

教師という仕事は、毎日が新しい出会いに満ちていて、同じ日は二度とありません。すべては、一期一会。しかし、それが、子どもたち、保護者、地域と学校に関わるすべての人たちと一生の付き合いに

なる可能性もあります。その分責任も重いのですが、お金では計算できない、心のつながりが大切にされる多幸感あふれるやりがいのある仕事です。

「授業がわからない、学校がつまらないという子どもをなくそう」「わかりやすく楽しい授業づくりに力を入れよう」といった競争主義を超えた学校制度および学力に関する仕組みを再検討する動きも現場では出てきています。教師という仕事は決して孤独ではありません。学校は一つのチームですので、教職員、子どもたちと一緒に成長していけることもこの仕事の魅力なのです。

小学校担当 八木 裕子 Yagi Hiroko

子供の成長を喜べる、幸せな仕事です

「できた!」「わかった!」「楽しい。もっとやりたい!」と、授業でそんな子供たちの声が聞こえると嬉しくて疲れも吹き飛びます。教師は授業で勝負です。毎日、毎時間、何をどのように教えるか考えていくクリエイティブな仕事です。そして、その授業づくりに一番大事なものは、目の前の子供たちをしっかりと見ること。今はインターネットで上手くいった授業の指導計画や指導案が簡単に手に入ります。けれど、それがあなたの教える子供たちの実態に合っているのかという視点が必要です。

子供たちをしっかりと見ることでできる教師になること、それは自分

磨きです。予想もしない子供の発言に驚かされたり、感心したり、子供の少しの頑張りでも気付いて褒めたり、子供の成長を実感できる教師になれるよう、学生の内にはできることはいろいろありそうですね。

学校では、子供を通して「嬉しいこと」にたくさん出会えます。それを豊かに感じ取っていける教師になってほしいと願います。きっと忙しさを越えて「やりがい」や「働きがい」を実感できること間違いありません。未来を創る子供たちの学びと成長にかかわる大役を担う、価値ある仕事でもあります。子供たちは若い先生が大好きです。明るく元気な先生との出会いを、子供たちはワクワクして待っています。

特別支援学校担当 片山 由美 Katayama Yumi

豊かな人生につながる学びを

自分の子ども時代を振り返ると「学校の先生」は身近な大人であり、頼りになる存在だったのではないのでしょうか。教師は責任のある仕事ですが、他の仕事では得られないやりがいのある仕事です。

子ども達は日々の生活の中で自分なりに考え、努力し、挑戦し、成長していきます。新しいことを発見した時、ようやく自分の力でできた時、納得して腑に落ちた時、最高の表情を見せてくれます。そんな瞬間に立ち会うことができるのは、子ども達と一緒に過ごしている教師の特権だと思います。一方、誰しも順風満帆な毎日というわけにはいかず壁にぶつかることもあります。初めの一步が踏み出せない時、

うまくいかなくてやる気をなくす時… そんな時に「成長」という視点で寄り添い、学びのチャンスにできるのも教師にできる大切なことです。

特別支援教育では個別のニーズを把握し、チームで支援し、学びを創造していきます。授業づくりや学級づくりの面白さ、また子ども達や仲間と共に学ぶ楽しさはかけがえのないものです。教師も子ども達もわくわくする教育活動をデザインし、学ぶことで世界が広がり、豊かな人生につながっていく、そんな夢に向かって共に学びを深めていきましょう。

よくある質問 Q&A

窓口で学生のみなさんからよく尋ねられる質問をいくつかまとめてみました。回答は所属する学科や履修条件によって異なることもありますので、詳細は必ず担当窓口で相談してください。

Q 教員免許状の取得には何年間かかるのでしょうか？

A 基本的に大学のカリキュラムは卒業までの4年間の履修を想定したカリキュラムとなっています。3年次秋学期終了時に一定の科目を修得していないと教育実習に行けません。もし2年次以降に教員免許の取得を考え始めた方は、教務部窓口で履修方法や手続等を相談してください。

Q 履修登録をしようとしたら、学科の必修科目と教職科目の開講曜時限が重なっていました。どうしたらよいですか？

A 履修方法や授業に関する相談は、教務部窓口で行うことができます。

Q 自分の学科で取得できない教員免許状を取得したいのですが、できますか？

A 「他学科聴講」という方法で取得できる場合があります。また小学校免許の場合、提携先となる大学の免許状取得プログラムで取得できる学科もあります(6ページ参照)。いずれも自分の学科で取得できる免許に加え、新たに別の免許の取得をめざすことになりますので、その分履修し単位を修得しなければならない科目が増えることになります。「他学科聴講」の注意点等の詳細は、教務部教職窓口でお尋ねください。

教員免許の取得にかかわる質問

Q 在学中に留学に行きたいのですが、教員免許の取得と両立は可能ですか？

A これまでも、教員免許の取得をめざしながら留学した先輩がいますので、両立は不可能ではありません。ただし教育実習の時期等については事前に教務部窓口で相談してください。卒業時までに教員免許取得に必要な単位を満たせない場合は、卒業後、科目等履修生として不足単位を修得することにより免許状の取得が可能です。

Q 中学校の先生になりたいなら中学校の、高校の先生になりたいなら高校の免許だけ取得すればよいですか？

A 中学または高校の先生をめざす方は、なるべく中学と高校と併せての取得を勧めます。教員採用試験において両方の免許取得を受験資格としている自治体があるためです(例：東京都)。また中高を併設している私立学校などは、両方の免許を取得している人材を求める場合があります。

Q 歴史の先生になりたい場合は地理・歴史だけ、政治・経済の先生になりたいなら公民だけを取得すればよいですか？

A そうとは限りません。高校の、特に社会科の先生をめざす方は、地理・歴史と公民両方の免許取得が必要な場合があります。両方の免許取得を教員採用試験の受験資格とする自治体があるためです(例：神奈川県高校社会科)。また自治体によっては、複数免許を取得している場合、採用試験において加点措置を行う場合もあります。詳細は自治体の採用試験要綱で確認してください。

Q 幼稚園教諭をめざしていますが、保育士の資格も取得した方がよいですか？

A 幼稚園教諭をめざす方は、在学中に保育士試験に挑戦し保育士資格を取得することを勧めます。近年増加している認定こども園(14ページ参照)では、幼稚園教諭と保育士資格の両方が必要になります。大学では「保育士資格取得対策講座」を開講していますので、活用してください。この講座は教職センターで申し込むことができます。



教員採用試験にかかわる質問

Q 教員採用試験対策はいつから始めればよいですか？

A 筆記試験に向けた対策としては、3年次の秋頃から始める先輩が多いです。ただし教員養成の基礎科目となる授業は1年次から始まっています。この授業での学びが教員採用試験に結びついていますので1年次のうちから授業を大切に学業に励むことが大切です。また、学校ボランティアを経験することにより教員をめざす意欲が層強まったという先輩が数多くいます。学校ボランティアを経験しておくのもよい対策と言えるでしょう。

※3年次前倒し選考を受験する場合は2年次の秋頃から始めてください。

Q 教員採用試験は難しいですか？どのように勉強すればよいですか？

A めざす学校区分、教科、地域ごとによって倍率は大きく異なります。希望する自治体のウェブサイトや教職センターにある資料で今年度の状況を確認してみましょう。倍率が高い学校種においても、毎年多くの先輩が教員となり教育に携わっています。しっかりとした準備を行うことが結果に結びつきます。筆記試験対策の通信講座も教職センターで申込可能ですのでぜひ受講してください。

Q 公立学校の教員採用試験は複数の自治体を併願できますか？

A 試験の日程が重ならなければ併願は可能ですが、多くの先輩は一つの自治体に絞って受験をしています。隣接する自治体では一次試験の日程が重なるケースが多いこと、また自治体により試験内容や傾向が異なるため学習のポイントが絞れないことがその理由です。受験する自治体の選択について迷った場合は、教職センターに相談にいらしてください。

Q 公立学校の教員採用試験を受験予定です。もし不合格の場合、その後の進路はどうなりますか？

A 自治体により時期が異なりますが、教員採用試験の最終試験結果が出揃うのは、4年次の秋頃です。不合格の場合は、各自治体の「臨時的任用教員登録」を行う方が多いです。登録方法については各自治体の教育委員会のウェブサイトなどをご確認ください。この登録をした場合、各学校で欠員が生じた際に教育委員会や校長との面接を経て「臨時的任用教員」(5ページ参照)として働くことができます。このように臨時的任用教員として1年間働きながら、次年度の教員採用試験受験を目指すというのが一般的です。学校現場で積んだ

経験は、2回目の教員採用試験において大きな強みになります。ただし臨時的任用教員として働く場合、採用試験の勉強に割ける時間は少なくなりますので、自身の苦手分野は在学中にしっかり復習するなど計画的に勉強する必要があります。

なお、私立学校に進路変更をする方もいますが、私立の小学校や特別支援学校は学校数が少なく毎年募集があるとは限りません。そのため公立から私立への転向は、幼稚園や中学・高校のケースがほとんどと考えてください。また大学院に進学して「専修教員免許」の取得を目指しながら、教員採用試験に再度チャレンジする方もいます。心配なことがあればお気軽に教職センターにご相談ください。

Q 「3年次前倒し選考」は受けた方がよいですか？

A 教員になる意志が固いなら、受けて損はないと言えます。実際になんりの方が受験し、通過しています。通過すれば4年次の夏までの期間を人物試験対策に集中させることができますし、不合格になった場合には翌年一般受験をすればよいだけのことです。ただし、当然ながら筆記試験対策を始めるべき時期も前倒しとなります。2年次の秋学期頃までには勉強を始める必要があるでしょう。また自治体によって自由応募型と大学推薦型に分かれる点にも注意が必要です。大学推薦型は3年次のうちに人物試験がありますので、対策が急務となります。興味のある自治体については早いうちから情報収集しましょう。

Q 教採にも大学推薦があると聞きました。推薦を受けるにはどうしたらよいでしょうか？

A 大学推薦は一般的な推薦試験と違い、合格し易いものではありません。また、毎年必ずあると決まっているわけではありません。幸いにも、本学では例年近隣の自治体に推薦枠のある状況が続いています。募集は3年次の3月頃に集中しています(一部例外あり)。学籍番号メールで募集情報を一斉送信しますので、学籍番号メールに注意してください。応募した後は学内選考を経て自治体選考に進みます。なお、大学推薦に一旦応募したら辞退はできません。応募する自治体の教員となる意志が固まっていない場合には応募しないでください。

※校種・教科は限定されています。

※ポートヘボンで過去の要項を見ることができます。

[ポートヘボン](#)>履修・授業・成績>ダウンロード>教職センター

進路選択にかかわる質問

Q 進路は「私立学校」を希望しています。大学に来ている求人情報はどこで見られますか？

A 教職センターで閲覧可能です。またキャリアセンターの「キャリア支援システム」でも最新の求人情報がチェックできます。「キャリア支援システム」には学生ポータルサイト「[ポートヘボン](#)」からログインできます。

Q 教員になるか、企業に就職するか迷っています。どうしたらよいですか？

A 教員免許の取得を目指す一方、民間企業への就職も視野に入れて、就職活動もしたいという悩みを持つ方は少なくありません。しかし教育実習時期と就職活動時期は重なることも多いため、両立は簡単ではありませんし、就職活動を理由に教育実習の日程変更はできませんし、教育実習を受け入れてくださる実習校は「教員になるという強い意志を持った学生のみを受け入れたい」と考えています。とはいえ双方に必要な準備をうまく活用しながら両立させた先輩もいます。まずは、自分は本当に教員になりたいのか、どのような教員を目指しているのかを色々な観点から考えてみましょう。なお、企業に就職した後、数年経ってから教員になろうと考える方もいますが、現在の教員不足の状況が今後も続くかどうかわかりません。安易に考えるのは禁物です。迷っている方は、キャリアセンターや教職センターにお気軽に相談にいらしてください。

Q 私立学校の中でも「キリスト教学校」の求人を探しています。どうやって探せばいいですか？

A キリスト教学校の教員就職を目指す方は「[キリスト教学校教育同盟](#)」のウェブサイトをぜひチェックしてください。<https://www.k-doumei.or.jp/> キリスト教学校の教員を目指す方向けの就職支援登録を行うことができます。また各種講座も開催していますのでご確認ください。

Q 公立学校教員を目指していますが、受験する自治体はどうやって決めればよいのでしょうか？

A 受験自治体の決め方に決まりはありません。ほとんどの方が自身にゆかりのある自治体(出身地や学生時代を過ごした場所)を選んでいきます。自治体ごとに教育目標や求める教員像は異なるので、しっかりと下調べをし、その自治体の志望理由を明確にする必要があります。

Q 東京都公立幼稚園の受験をするか、私立幼稚園か迷っています。もし東京都公立幼稚園が不合格だった場合、どのような進路が多いですか？また、東京都公立幼稚園と私立幼稚園の採用試験はいつ頃でしょうか？

A 東京都公立幼稚園に不合格だった場合、もう1年勉強して再チャレンジする方もいますし、私立幼稚園に就職する方もいます。東京都公立幼稚園の採用試験は春から夏にかけて(13ページ参照)実施されます。一般的に私立幼稚園の採用試験は夏～秋にかけて多くなります。





編集

明治学院大学教職センター(教育キャリア支援課)

〒108-8636 港区白金台1-2-37

電話03(5421)5896 メールcareerk@mguad.meijigakuin.ac.jp

デザイン・印刷

株式会社山栄プロセス

本誌はCOVID-19以前に撮影した写真とその後、新たに撮影した写真で構成されています。撮影は感染対策を万全にしたうえで行っております。

2025年3月発行